

令和7年度の振り返りと今後に向けて

特定非営利活動法人ほっぷの森

理事長 菊田俊彦

資材、原材料等の高騰が今も続いている。不安定な社会情勢が大きな要因ではあるが、少子高齢化、労働人口の減少等、事業としての成り立つ形は今後も変化し新しい価値の創造が求められる。コンパクトに効率よく、魅力的な商品作りに向けて取り組んでいかなければと思う。

ここ数年、非常に厳しい運営状況が続いたが「ほっぷの森カレッジ」の新しい取り組みや「就労準備支援センターあぽかぽ」で受託した国土交通省の事業など少しずつ成果として結びついてきていると感じる。TFU Cafeteia Olive においてはコロナ禍以降お店の商品作りと商品の定着化、スタッフの働く環境作りと長い時間を掛け立て直しに取り組んできた。レストランの売上増により、給付費単価も上がり、数字的に大きく改善することができた。それぞれの事業所の前向きな取り組みが少しずつ結果として表れてきていると感じる。パートナーのこれまでの頑張りに心から感謝したい。

経理、事務の取り組みにおいては、月次での数字の把握に向けて取り組んだ1年となった。外部の経理の方に入っていただきながら様々な見直しを現在も行っている。令和8年度より、月次での数字の把握を行い、管理者、サービス管理責任者等で共有し、強い仕組み作りに向けて取り組んでいきたい。

新たな仕組み作りに向けての取り組みとして、東北福祉大学、株式会社福祉工房などこれまでお世話になっている関係機関と更なる連携を深め、TFU Cafeteria Olive 及びほっぷの森の各事業所が学生の学びの場としても受け入れ、繋がりながら福祉のより開かれた仕組み作りに向けて取り組んでいきたい。更に、支援機関、医療機関、企業など外部との繋がりを大切にし、新たな可能性を探りながら新しい仕組み作りに向けて取り組んでいきたい。

これまでを振り返り、未来につなぐ

ほっぷの森カレッジ学長 渡辺祥子

(ほっぷの森副理事長)

2026年度は、現在の「ほっぷの森」がLLP（有限責任事業組合）として活動を始めた時代から考えると19年目（NPO法人としては18年目/法人名を「ほっぷの森」としてからは17年目）、20周年ととらえても良い年。改めてこれまでを振り返り、これからを考える大事な年といえる。

これまでの歩みの中で、事業所の開設だけを抜き出しても～

2008年～「就労支援センターほっぷ」（就労移行支援事業）、「レストランびすた〜」（就労継続支援事業A型事業）、

2009年～「びすた〜フードマーケット」（就労継続支援B型事業）

2014年～「相談支援センターほっぷの木」（相談支援事業）、「cafe JhoJho」（就労継続支援B型事業）も開始

2018年～「就労定着支援センターほっぷの実」（就労定着支援事業）、「TFU cafeteria Olive」（就労継続支援A型）

2020年～「びすた〜榴ヶ岡」（就労継続支援A型）

2023年～「就労準備支援センターあぽかぼ」（自立訓練（生活訓練）事業）

～このように並べられる。もちろんこれらの間には様々な事業や取り組みが入ってくるが、事業所開設だけをとっても、背景には、社会の動きや流れのみならず、その存在を必要とする方々の悲痛な叫びがあり、協力・連携して下さる方々の絶大な後押しがあり、奇跡的な偶然もあったということを忘れてはならない。

もちろん長く法人に関わってくださる支援者の方々や法人で働くパートナーにとっては周知の事実ではあるが、年々新しいパートナーが増える中、今のほっぷの森の構成は当たり前にあるのではないということ、そしてひとつひとつの事業所設立の背景を知ること、自分たちの役割を再認識することもあるのではないだろうか。

パートナーひとりひとりが目の前の己の支援のその背後にある奥行きを知ることが、さらなる支援の充実、そして法人の発展につながるのではと、新しい期の始まりにあたり強く感じ、周知に資することができればと考えている。

2025 年度 就労支援センターほっぷ 事業報告

1. 利用者の推移と方向性

2025 年度は 10 名（定員 14 名）でスタートしている。5 月に定員を 14 名から 12 名に変更している。その後 7 名が新規利用、4 名が就労、1 名が復職、2 名が就労継続支援 B 型、1 名が利用満了になり 3 月末現在で 12 名が利用している。久しぶりに支援学校の生徒が実習に来て卒業後の利用開始を予定している。引き続き、医療機関の他にも学校などに営業をかけていき日々の利用者出席数 12 名を目指していきたい。

2. プログラムの取り組み ※別紙参照

2025 年度も「自分を知る」「仕事を知る」「企業を知る」をテーマにプログラムを実施している。始めのミーティングでスタッフの体調も確認しながらコミュニケーションをとっている。運動プログラムや心理学講座、SST、行事などあぽかぽと合同で実施するものもあり事業所の枠を超えて交流もしている。コミュニケーション術の課外授業のように個別で対応しているものもあり、それぞれの課題、目標に向けて実施している。セルフトレーニングではそれぞれ定期的実施しているものについては自ら行動できるようにサポートしている。ここ数年実施できていなかったが利用スタッフ全員で企業訪問 (NTT ドコモ東北) する機会も作った。事前準備、当日の動きの確認、振り返りと貴重な訪問、見学になった。

3. 就労目標と支援

2025 年度は各種面接会も通常開催になっていて面接をする機会が増えているが、すぐに応募というより今後就職活動をする方の見学の機会になっていた。ハローワーク求人だけでなく、仙台市障害者就労支援センターやアデコ（県事業）、チャレンジドジャパン（県事業）、わ〜くからの情報提供による見学会や体験から就労に結び付いた方もいる。見学や実習のタイミングからパートナーも同席し就労後のフォローアップにつなげている。失業給付を受けているスタッフもいるので、あらためて働き方をいろいろ検討していきたい。就労経験が少ない方もいるので様々な仕事を知る機会も作っていきたい。

4. フォローアップの取り組み・就労定着支援事業とジョブコーチ支援との連携

2025 年度の就労者も事前の見学や実習を行ったうえで働き始めているので就労後のフォローア

ップから就労定着支援にスムーズに移行している。毎年、就労定着支援が終了する方がいるので今後のフォローアップについて個別で対応していきたい。特に就労定着支援終了後に退職（期間満了含む）する方もいるのでどのような転職活動がいいのか一緒に検討していきたい。ジョブコーチ支援を利用する方はいなかったが職業評価など職業センターに相談し利用できる準備を進めていた。

5. ご家族支援

利用開始時にご家族の方にも説明し各種手続きなど一緒に確認しながら対応している。また就労決定の際には働き始めてからのフォローアップについて説明しご家族にも安心していただいている。高次脳機能障害や若年性認知症の方が多いのでご家族（奥様）と電話やメール等で連絡しながら支援している。

6. 各関係機関との連携

宮城県事業である「障害者就労における連携構築支援業務」（受託：アデコ）や「障害者雇用マッチング機会創出支援事業」（受託：チャレンジドジャパン）、仙台市障害者就労支援センター、わ～くからの見学会や研修会にも積極的に参加している。宮城障害者職業センターのジョブコーチ推進協議会など参加し情報共有している。2025 年度も就労支援機関 EXPO にも参加し多くの企業担当者と情報交換し現在新規雇用に向けて進んでいるものもある。

7. 職員研修、スキルアップ

仙台市障害者就労支援センターや宮城県事業のアデコやチャレンジドジャパンから案内いただく連絡会議や研修会に積極的に参加し他事業所のかたとも情報交換している。またハローワーク活動や企業見学、実習にも同行し経験を積んでいく。今後もそのような機会を作っていきたいです。

就労支援センターほっぷ
サービス管理責任者
貫洞 正一

【2025年度就労支援センターほっぷプログラム実施状況報告書】			
＜プログラム名＞ 目的・目標	実施内容・実施方法	成果及び今後の課題	担当者 (講師)
＜始め・終わりのミーティング＞ ・スタッフが各役割を担当することでスタッフ主体の場をつくる ・メモリーノートや日報を活用しながら1日の流れを把握し、自ら時間を意識して動けるようにする	スタッフが順番でリーダー等の役割を担当。毎日実施。 ＜始めのミーティング＞(※水曜日は③～⑥を省略) 担当：リーダー・ボイストレーニング・ブレインジム ①出欠・体調確認 ②1分間スピーチ・今日の目標 ③今日の話題 ④ボイストレーニング・挨拶練習 ⑤ラジオ体操 ⑥ブレインジム ⑦スタッフ、パートナーからの連絡確認事項 ⑧スケジュール確認 ⑨セルフトレーニングでの取り組み予定を確認 ＜終わりのミーティング＞(※水曜日は③～⑤のみ実施) 担当：リーダー・Bトレ・掃除 ①Bトレ ②本日の報告 ③明日の出欠確認 ④明日のスケジュール確認 ⑤パートナーからの連絡確認事項	・各担当マニュアルを改新し、進行のしやすさわかりやすさにつなげた。 ・1分間スピーチや今日の話題等、毎日発言できる場があることで、話す事、伝えることの意識につながっている。 ・日報整理やメモリーノート記入に関しては、タイミングや書き方の声かけが必要な場面が多かった。 ・始めのミーティング時にセルフトレーニングでできる作業等の声掛けをすることで自らセルフトレーニングで行う内容を決め、遂行できることにつながった。 ・時間を見ながらの行動につながるように声かけをし、時間の意識付けをおこなった。	箱崎
＜セルフトレーニング＞ ・個別支援計画に基づいた目標に向けて、各自必要なトレーニングを行う ・取り組む意味を知り、自分に必要なトレーニングに主体的に取り組む ・取り組んだ内容を振り返り、確認する	○スタッフ各自の取り組み・各パートナー担当 ○週4～5回、1日1時間～2時間程度 ○メモリーノートを活用し、各自が自発的に取り組めるようにする ＜全スタッフが実施＞高次脳機能バランスー ＜各自必要に応じて実施＞OAワーク、事務作業、各ドリル、パソコン入力、軽作業、ハローワーク活動 ＜必要に応じて実施＞行事など各役割での話し合い	・メモリーノートに作業一覧はあるものの、そこから選んだり、何をするか決められずにいる方がおり、作業系なのかパソコン系なのか朝の時点で確認をし、個別に声かけをしながら対応した。メモや成果を記入できていないスタッフも多いため都度声掛けが必要である。 ・履歴書や職務経歴書をパソコンで作成する他、求人検索や面接練習、ハローワーク活動も時間の中で取り組めた。 ・パンフレット折り作業、シール貼り作業では折る箇所、貼る箇所がわかるようマニュアルを作成して仕上がりが統一になるよう工夫した。 ・清月記作業では障害の特性に合わせて作業内容を選定したり、作業の場所を確保するよう工夫した。 ・日報の記入、終わりのミーティングの発表を行うことでセルフトレーニングで行った内容の振り返りができた。	箱崎
＜Bトレ＞ ・注意・記憶力、遂行機能のトレーニングを行い脳の活性化を図る。 ・耳から入ってくる情報に注意を向けて聞くことで、注意・記憶力を高めて、社会生活に活かしていく。	月に1～2回、1時間程度で実施。①字をキレイに書くトレーニング②3つの単語の記憶③数字の書き取り(3桁20問、4桁20問)④注意・集中力のトレーニング、遂行機能のトレーニング 終わりのミーティングで行うBトレは水曜日を除く週4日15分程度で実施。 スタッフが順番に進行を担当する。 ①「聞く注意カドリル」の全4種類を各曜日ごとに実施。②進行係がドリルを読み上げ、他スタッフが書き取りを行う。③書き取った答え合わせをスタッフ	・終わりのミーティングでは、全体の進み具合を意識しながら読み上げ、声の大きさや速さ等のトレーニングとなっている。 ・答え合わせの際に、スピードが早くなりすぎてしまう事が多くみられ、早くなった時には声かけをしながら対応している。 ・楽しみながら行えるよう、脳トレの問題を多く行った。2～3名のチームを作ってゲーム形式で行うことで、コミュニケーションを取る機会を増やすことができた。	今野
＜メモリーノート＞ ・メモリーノートを共通の教材として活用することで、スケジュールや行動・情報等の自己管理をする。 ・メモリーノートの役割や使い方を理解し、メモを習慣にすることで記憶の補完につなげる。	週1回、1時間程度で実施。 ○メモリーノートの目的と活用方法を読み上げて確認する。 ○各プログラムの内容や予定の確認をしながら、書き込みを実施する。 ○メモリーノートの各ページの使い方(活用)の確認と書き込み ○セルフトレーニングで取り組む内容を確認し、書き込む。	・毎時間、目的や活用方法の確認時に、就労後の活用につながるように様々な方法や工夫をスタッフにも聞きながら実施した。また、メモや確認がプラスになるよう意識しながら進めた。メモの必要性に対する意識に差はあるが、個々の必要性に応じて対応していくように心がけた。 ・各ページの活用に関しては、書き方にこだわらず、スタッフと一緒に工夫の仕方を確認しながら、有効なページの使い方を具体的に取り上げながら	今野

<文章表現> ・イメージ力や文章構成力を高め、円滑なコミュニケーションにつなげる。 ・自己表現に慣れることで、自分の意志や意見を伝えることができるようになる。	週に1回、1時間程度実施。 ○作文：複数のテーマから選択し、他者に伝えるための表現力と文章の構成力を養う。 ○ワーク：表現力やイメージ力を培うワーク、漢字練習、ペン字練習、カルタ（ほっぷ・高次脳機能障害）など →様々なワークを通じて、イメージを言葉にするための表現力、語彙力、伝達力を養う。	・作文では、想いや出来事について内容を膨らませて書くスタッフが多かった。MYニュースをテーマ候補に入れたことで、決められたテーマに沿って書くことが難しいスタッフも、自身の近況を書きやすくなり、パートナーがスタッフの近況を知る機会にもなった。 ・漢字などの個人ワークでは、スタッフに発表してもらいながら答え合わせを行うことで、自分の考えや答えを言葉にして伝える機会となった。 ・グループワークやほっぷカルタでは、説明する、聞く、感じたことを言葉にするなどの活動を通して、表現力やコミュニケーションを意識する機会となった。 ・文章を書くことや人前で発表することには個人差があり、取り組み方や表現の仕方も利用者によって異なる。今後も、スタッフそれぞれのペースを大切にしながら、安心して文章表現に取り組めるよう進め方を工夫していく必要がある。 ・想像力を必要とする課題やグループワークでは、内容を具体的に考えることや、相手に伝わるように説明することに難しさが見られる場合もあった。今	三塚 箱崎
<文章理解> ・朗読（音読）をすることで、言語機能の強化と前頭葉機能の活性化を図る。 ・読み、聞き、要約し、考え・意見を伝え合うことで伝達する力をつける。 ・他者の話や川柳等を通して、自分の考えの他に他者の考えの理解にもつなげる。	月2回、1回1時間で実施。 ○スタッフや卒業生が作った川柳を発表。 ○テキスト（新聞記事）を朗読（音読）し、それぞれの考えや意見を出し合い、理解を深めていく。 ○朗読に関しては、スタッフの状況に応じながら、全員もしくは個別でおこなっていく。	・川柳に関しては、卒業した先輩から出して頂いた。興味を持ち内容の意図を聞くことができた。 ・新聞記事から、様々なテーマを読み合わせ意見を聞いたり話したりすることで、普段意識しない事柄にも触れることができた。中には気持ち的に苦手な内容の方もおり、その際はパートナーに報告して、離れるなどの対応も出来ていた。 ・文章の朗読に関しては、皆とテンポを合わせることで難しい方や意見のやり取りでなかなか発言が難しい方もいた。新しい講師になってから、一人ずつ読むようになり、自分のペースで読むことが出来る	今野 （田多） 2025.11～ （一篠）
<就職に向けて> ・働くために必要なことを学び、就労に向けたトレーニング、就職活動の実施。 ・「働く」ことについて考え、働くために必要なことを知る ・就労に必要な情報を集め・まとめ・実行し、働き続ける力をつける。 ・就職するまでの流れ、取り組み、必要な準備を知り、実施する。 ・面接に向けて自己PRができるようになる。 ・就職活動の実施（ハローワーク活動、障害者合同面接会の参加）	週1回、1時間程度実施。さらに月初は前月の取り組みの振り返り及び当月の取り組み予定を確認する。 ○全体活動 ・月初に1回、各自から前月の取り組みと目標の達成度、当月の目標と取り組み予定の発表をおこない、就労に向けての取り組みの意識付けをおこなう。 →『私の就職プラン』シートの活用 ・模擬面接(年2回)→障害者合同面接会前に、コミュニケーション術と連携し実施。 - 全体で実施する模擬面接とは別に「課外授業」として個別対応も行なう。 ・その他、随時、各活動報告等、必要に応じて実施。 ○通常活動（週1回） ・他者の活動報告を聞き、就労までの流れや取り組み方を知る。 ・自分のこと（障害・病気・目標等）をまとめる。 ・仕事(職種)について学び、自分の希望する勤務スタイル・希望職種を考える。	毎月初めに全体で前月の目標に対しての振り返りと新たな目標を設定している。他の方の動きも確認しながら自分の進み具合を確認している。 また毎週、それぞれの活動報告を行いながら就職活動の流れを確認している。 月に1回程度、ハローワークのインターネットサービスで求人を検索し勤務場所や仕事内容、勤務時間、休日、選考方法などを見ている。特に見学・実習の有無などを一緒に見るようにしている。 勤務場所についてイメージがつかない方も多いので通勤方法、時間などグループで調べ、自分だったのくらいまで通うことができそうなのか検討する機会になっている。 年に2回程度、全体での面接練習を行うがコミュニケーション術の課外授業など個別で実施する機会が増えている。 失業給付の手続き、認定日など定期的にハローワークに行く方もいるのでパートナーも同席しながらハローワークの活用方法を確認している。	貫洞

<スポーツプログラム> ・体を動かす習慣をつけていく ・スタッフ同士がコミュニケーションを取りながら取り組む。 ・様々な道具を使い、感覚や力加減などを知っていく。	【ストレッチ】毎週水曜日30分程度で実施。スタッフが交代でリーダーを行う。使用したマットはセルフトレーニングにて消毒も行う。 【フロアホッケー】月1回1時間程度で実施。5人1組でチームを作り、決められたルールに則り行う。コートづくりは事前にスタッフが中心となり作成していく。 【リズム体操】月1回1時間程度で実施。講師の指導の下、ストレッチや音楽に合わせた全身運動を行う。 【スポーツコミュニケーション】月2～3回1時間程度で実施。プログラムの前日までに内容を決定する。(スタッフ内で多数決)、同じ競技が連続しないように、他の競技も提案しながら進めていく。行うスポーツに関しては、既存のものに拘ることなく様々な競技を、時にはその日に、新しい競技も取り入れる。	○ストレッチ ・ヨガマットの準備やその日のセルフトレーニングでヨガマットのアルコール消毒を作業として行った。 ・マット清掃を当番制にしたことで、一人二組で行え、コミュニケーションを取りながら行うことが出来ている。 ○フロアホッケー ・動きの枠を設け、安全面に気を付けながら実施出来ていた。 ・動きの枠を調整しながら進めた。接触場面は大いに減ったが、それで、ゲームとして面白みが無くなるということではなく、皆さん楽しみつつコミュニケーションをしっかりとることが出来ていた。 ○リズム体操	今野
<健康プログラム> ・運動することを楽しみ、心身をリフレッシュする ・健康への意識を高める	【健康増進センター】年6回、午後の時間で移動し1時間程度実施。毎回血圧測定をし、自分の身体の状態を把握する。ウォーキングや筋トレを自分の体調に合わせて安全に楽しく取り組む。 【オンライン体操】月1回1時間程度実施。増進センターのオンラインでの出前授業を依頼している。	・増進センター担当職員の指導の下、ストレッチやマシンを使った筋トレに取り組むことが出来ていた。 ・血圧測定や身体を動かす中で、自分の身体の状態や健康を意識できるようになってきたが、中には、血圧を含め自身の健康状態の把握や管理、意識が難しい方もおり、パートナーからの声掛け・見守りが必要。 ・少人数で行っている分、職員の方に指導を頼みやすく、個別に指導してもらっている方もいてより効果的に実施できていた。 ・解散時間のメモは流れが定着してない方もいるため、声かけ確認をして、習慣化を図っていく。 ・ケガや事故なく、運動を楽しむことが出来ており、今後もスタッフそれぞれが楽しく体を動かせるよう、仙台市健康増進センター利用、オンライン体操教室の申し込みを行い、職員の方の協力を得ながら実施していく。 ・ほっぷ周辺の公園を目標に散歩を実施。身体状況	今野
<脳と身体プログラム> ・身体的なバランスの向上 ・作業を通して自分の身体の状態を知る ・体の使い方をを知る	月1～2回1時間程度で実施。ウォーミングアップとして、全身運動や考える課題の実施。簡単なゲームや体操を取り入れていく。 様々な作業を通じて、効率よく疲れにくい身体の使い方を試す。スタッフ同士のコミュニケーションを通して、色々な気づきを促していく。 定期的にブレインジムのやり方や目的の確認を行う	・コグトレを取り入れることで力加減や物と自分との距離感を知るためのトレーニングを行うことが出来た。 ・ラジオ体操やブレインジムのそれぞれの効果や運動部位などの確認も実施することができた。	今野
<コミュニケーション術> ・コミュニケーショントレーニングを実践の中で学び職場適応を円滑にしていく。 ・周囲の人たちと協調することを前提に、言語・非言語表現を充実させていく。 ・詩や本の朗読、講和から言葉の心情を感じる ・自分や周囲との向き合い方などロゴセラピー的な考え方を取り入れて考える ・模擬面接において姿勢や表情、言葉の使い方・出し方を学	月2回1時間程度で実施。 <講話>ロゴセラピー的な考え方、人の言葉を味わう。感じたことや印象に残った言葉をまとめてみる。 <ボイストレーニング>呼吸法、発声、声出し、相手との距離を意識した声の大きさ <模擬面接>模擬面接の時期に合わせて実施。姿勢や立ち振る舞い、受け答えを確認する <課外授業> セルフトレーニングの時間に、希望者と個別のトレーニングを行う。面接練習や発声・姿勢の他に、面談で気持ちの整理や考え方について相談ができる時間にしていく。	・ロゴセラピーの生き方の講座では、感想や印象に残った言葉を書き込めるようシートを配布。各スタッフがその時々のテーマに対し、心に残った言葉や考えたことを記入し発表。自身に置き換え、振り返り、見つめなおす時間にもつなげられている。 ・ボイストレーニングでは、姿勢、表情筋、呼吸法などのポイントを繰り返し実施。早口言葉も楽しみながら行っている様子があった。 ・通常のプログラム外にセルフトレーニングの時間を使って「課外授業」として希望者に個別のトレーニングを実施。面接練習、発声練習、面談等に取り組めた。担当者と1対1で話し、志望動機や言葉遣いの確認、就職に向けての相談をすることや、気持ちを一緒にまとめる方も多く、それらを元に今後の目標を設定した。	及川 (渡邊祥子)

<グループワーク・トーク> ・コミュニケーション能力を身に付ける ・グループで話すことによりお互いを知り自分を知る	【グループトーク】月1回1時間程度で実施。当日朝までにトークテーマをスタッフに考えてもらう。チームごとに分かれて進めていく。チーム内で進行と発表の役割を決める。チームは挙手にて決定する。トーク後は話した内容について発表係が発表をする。 【グループワーク】必要に応じて実施。ほっぷ・ルールの確認・検討を行う。 パートナーも含めて認識の統一化を図る。必要に応	・新しいスタッフが入るタイミングで、ルールを確認することで、スタッフだけではなく、パートナーにとっても、改めて確認する機会となっている。意見を出し合い、仕事を意識したマナーを考えるきっかけとなった。 ・各スタッフのことをより深く知ることができたり、一人の発言を広げて他の方の経験を知ることができるなどコミュニケーションの場であり、よい交流を生むことができた。パートナーもスタッフもお	今野
<SST> ・お互いの思いや悩みを共有する ・新しいスキルを習得する ・自己理解を深める ・より自分に合った「処世術」を身につける	月に2回実施。 人の話を最後まで聞く。 人の話を否定せずに聞く 他の人が話したことを外では話さない 話したくないときはパスOK 丁寧語（です、ます）で話すというルールを設けた。 月ごとにテーマを設定し、2セッションで実施した。	〈成果〉 ロールプレイが実践的で役に立ったとの声が、スタッフから多く聞かれた。 また、異なる世代のスタッフが、それぞれの考えや経験を表現し、共有できる場となった。 〈課題〉 一方で、ロールプレイで練習した内容が、実生活や日常場面での行動に十分つながりにくい面があった。 また、自由であたたかい雰囲気の中で活発なやりとりが生まれる一方、話題がテーマの中心からそれる場面も見受けられた。 今年度は、ほっぷ・SSTらしい雰囲気を大切にしつつ、スタッフ一人ひとりがテーマを「自分ごと」として考え、実生活や職場場面で活用できるよう、進	三塚 今野
<行事> ・遂行機能を鍛える ・スタッフが主体となって企画し計画を立て実施できるようにする ・1つのことを皆で成し遂げる経験をする	年3回実施予定(春4月・夏・秋) 行事当日の1か月程前から行事に向けてのプログラムを実施。 進行、書記を中心に話し合いを進めていく。役割ごとにプログラムの時間を利用し準備し発表をしてい共有していく。ほっぷとあばかば合同で行い、コミュニケーションをとり分担しながら当日に向けて準備を進めていく。行事終了後に良かった点や反省点を振り返り次の行事に活かしていく。	(春：八木山動物公園、夏：松島観光→映画鑑賞、室内でゲーム、秋：芋煮、映画鑑賞) ・スタッフ自ら役割を分担・担当。打合せや当日の動きの場面でコミュニケーションをとりながら分担して進めていくことができた。タイムスケジュールや場所調べ係、それぞれの係が皆で楽しめるよう工夫をして話し合いをしている様子があった。 ・春の行事は前年に引き続き、昼休み後半に買い物や自由行動を可能にし、楽しまれている様子があった。課題として、パートナーの昼休み時間の確保が挙げられる。 ・夏の行事は地震と津波注意のため直前に室内用のスケジュールに変更となった。切り替えて係ごとに動き、当日は楽しまれている様子があった。 ・秋の行事は映画の時間を確保するために料理の工程で時短ができるかどうか等、プログラムの中で当日に向けて話し合うことができた。係決めについて、ほっぷ・あばかばのスタッフが手を挙げやすい	及川
<就職活動> HW活動・模擬面接 ・求人応募のためにHWで相談する ・面接の準備として模擬面接を実施する	<HW活動> ・「就職に向けて」のなかでHWの利用方法を確認する ・セルフトレーニングなどで求人検索をし検討する ・検討したうえでHWの窓口で相談する ・失業給付の認定日に同席し窓口で相談する <模擬面接> ・ふれあいワークフェアなど大きな面接会の前に全体で面接練習を行う ・その際、スーツの着こなしや持ち物などを確認する ・求人応募に合わせて個別で面接練習する機会を作	セルフトレーニングの時間に求人検索を行い気になる求人を印刷し応募検討している。応募前の見学や実習についてハローワークの窓口で相談している。面接会に合わせて模擬面接の機会を作っているが、それぞれの応募に向けて個別に対応することが多い。	貫洞

<企業訪問・実習・講話> ・就職の為に様々な企業を知る ・色々な職種に興味を持ち知る ・企業の障害者雇用を把握する ・就職活動の段取りを知る ・面接をするまでの準備・段取りなど一連の流れを把握する ・訪問企業の場所と交通手段を調べる ・企業訪問を継続して実施することでスタッフの職業選択の幅を広げる ・企業に障害者雇用に対しての理解を広げていただく ・見学後、実際に体験させてもらう機会を相談する ・見学や実習とは別にほっぷに來ていただきお話を聞く機会を作る	<企業訪問> ・随時、職種・業種など、希望に応じて、少人数もしくは個別で行う。 ・年一回、プログラム活動として全員参加の見学を行う。 ・場合によってはオンラインでの実施を検討する。 ・企業訪問シートに以下の内容をまとめる ① 企業を知る・アクセスを調べる ② 各自質問を考える ③ 企業訪問（企業講座・見学・質問感想） ④ まとめ ⑤ 振り返り・発表 ・企業訪問先の開拓 ① 就労されている先輩の就労先への依頼 ② これまでの企業訪問先への再営業の実施 ③ 仙台市障害者就労支援センター、わ〜く、アデコ等、関係機関との連携 <企業実習> ・見学後、可能であれば実習を相談し実際の業務を体験する ・実習を行いながら業務内容、会社の雰囲気を確認	<企業訪問> 昨年度は全員で企業訪問する機会を作った。移動方法も含め全体で確認し実施している。 基本は求人応募前の個別での見学が多かった。パートナーも同行し応募に向けての振り返りを実施している。 <企業実習> 応募前の見学後に個別で実習をお願いする機会が多かった。パートナーも同席しているので仕事内容だけでなく就労先の環境も一緒に確認し応募に向けての検討材料にしている。 <職業講話> 企業の方を迎えての講話はなかったがオンラインでのセミナーに参加する機会があった。特に当事者の話を聞く機会が多かった。	貴洞
<表現のプログラム> ・世界は今あるようにあると考えがちですが、実はそれは自分が今そのように見ている（見せられている）一面的なもので、実はいろいろに捉えることができ、世界を今あるのとは別の見方で見ようとする人間の営みのひとつであり、最もダイレクトにそれを実現できるのが表現活動＝アートです。そうした広い意味での表現活動を通じて、自分の見方に気づき、世界を見る見方を変えていく、広げていくことを目指します。	月に2回1時間程度で実施。 A. 制作表現 手を動かす造形をメインにしたプログラム。いわゆる「美術」を中心に、希望によっては「音楽」「文芸」などに取り組んでいきます。基本的に個人ベースでの制作で、参加者に応じた画材やテーマを用意します。形になったものはほっぷの森フェスティバルなどに展示します。 美術：基本的な画材を一通り試して、自分に合ったものを選んでいきます。 音楽：人の歌を歌ったり、曲を作ってレコーディングしたり。また、キーボードや打楽器を自由に演奏したり、それをレコーディングしたり。 文芸：言葉や詩を書いて音読したり、人の書いた文章を読んだり。 B. 企画表現 具体的な何かを作るのではなく、想像や他人との対話を通じて何かを企画するプログラム。	年度はじめに講義形式で「表現」についてお伝えした。門脇がこれまで経てきた表現遍歴と、国内外の具体的な作品事例を示しながら「いろいろな表現がある」「アートの表現とデザインの表現の違い」「表現することは、自分を伝える手段で、ひとを知る手段」「表現することは、生きていることのあかし」といったテーマについて語り、学校で習った「美術」や一般に流通している「アート」にとどまらない幅広い表現があることをお伝えした。 その後、ほぼ1年を通して「ほっぷの森フェスティバル」の企画と制作に取り組んだ。企画をしたいチームと制作をしたいチームに分かれて活動したが、制作がメインで進んでいった。 2月に「ほっぷの森フェスティバル2026」を開催。1年かけて準備を行い多くのお客様に来ていただいた中で、それぞれに役割を持ちながら行うことが出来た。また、仙台市内6箇所に30点以上の展示を一ヶ月にわたって行った。「表現」を核の一つの企画をみんなでつくりあげていく体験を行った。	今野（門脇）
<仕事について> ・参加する方の状況やニーズ等に合わせて、幅広いテーマで話を聞いたり、グループで話したりすることで、自分自身の「仕事」「働くこと」「障害（病気）」について考え、知る。	月2回、1回1時間で実施。 ○参加スタッフの状況等に応じて、テーマや文献、講習会等から伝えていく。 ○講座方式、グループ方式で考えていく。	高次脳機能障害に関してこれまでの事例やほっぷの関わり方、ピアサポーター、リハビリテーション、グループホームについて等をテーマに、スタッフ自身の状況や想いを聞き取りながら講話。 障害についての捉え方・付き合い方を考えるきっかけになったことや、就職後の支援について分かり安	及川箱崎（深野）

<先輩会> ・現スタッフが卒業された方を招き、仕事に関わることやほっぶの時の話を聞き今後の活動に向けて参考にする。 ・先輩同士のコミュニケーションの場とする。 ・継続した支援の場とする。	年2回実施。卒業者が増えてきているので2カ月に分けて行っていく。 ①先輩会の目的や当日の質問内容を考える。②役割分担を考える③先輩会シートを活用し、自己紹介や役割、質問事項等を書き込む。を先輩会までに行う。 先輩会の当日は①グループごとに自己紹介②写真撮影③情報交換会(進行はスタッフがを行い、話をすることに集中できるよう記録はパートナーが行う。)④グループごとの発表を行う。 終了後は現スタッフが原状復帰をし、先輩にはアンケートを記入していただく。 今後も人数の変動などに応じて実施方法などを検討していく。	・今年度も1回を2ヵ月に分散し実施。対象者は、就労者(一般及びA型事業所)している卒業生とし、昼食交流会や就労者以外の卒業生を呼んでの会は計画に至らなかった。来年度には昼食交流会など計画していけるようにしたい。 ・準備等に関しては、先輩会シートを活用しながら、自己紹介の記入や役割分担、質問内容等を確認した。 ・グループ分けは、パートナーが決めて提示。 ・各役割の準備はセルフトレーニング等を利用して実施。 - 各自が予定を確認したりしながら声がけをして準備。必要に応じてパートナーも入りながら実施した。 ・当日のトーク記録はグループ担当のパートナーが実施し、スタッフには先輩の話に集中していただいた。 ・実施翌週からは、就職に向けてや他プログラムでも取り上げ、連携を図った。 ・先輩からの話を聞き現スタッフの気付きや先輩のモチベーションにつながった。	今野
<トータルパッケージ> ・パソコン、事務、実務業務の各項目でスタッフ自身が得意とするもの、苦手とするものの把握をする。 ・結果を踏まえて就職に向けて何をトレーニングしていくのかの指標として活用していく。	簡易版を利用し始めの段階で取っていく。月2～3回1時間程度で実施。 復職で利用期間が限られている時などには訓練版で特化したもので検査として使用することも可能。 幕張版ワークサンプルを用いて実施。LV1～LV5まであり段階的に実施していく。段階の目安を簡易版を指標にしてその人のレベルに合わせたものを選択していく。 スタッフ自身が結果を見返せるように、結果用紙を	・利用開始スタッフと既存のスタッフで、就労に向けての確認等で優先を決めながら対応することは出来ていた。 ・前年度に比べて利用開始時にスタートすることは出来るようになってきている。 ・時間に固執するのではなく、プログラムを見て柔軟に対応することで、計画的に行うことが出来た。	今野
<心理プログラム> ・自己理解を促進し、自身の強みや課題を理解し、より良い職業選択につなげる。 ・他者理解を深め、対人関係スキルの強化を目指す。 ・思考の柔軟性やストレス対処力などの向上を図り、職場での適応力を高める。	それぞれ月に1～2回、1回1時間程度で実施。 <心理学講座>臨床心理学的手法を用いて、自分を知る、ストレスマネジメント、アサーション、認知行動療法的な考え方などのテーマについて、講義とワークを通じて身に付けていく。 <〈仮〉はたらく力相談ひろば>毎回同一指標を使用して心身のコンディションをチェックし、セルフモニタリング力を高める。また、その都度スタッフから出されたテーマについてグループ全員で考え	・感情の理解として、ストレスや気持ちに役割があることや、ストレスが溜まった時のサインをシートに記入し振り返ることができた。 ・グループでアンガーマネジメントについて話し合い、意見を交換し方法を知ることができた。 ・職場で働くことを想定し、人との距離感や自己紹介文を考え発表。自分の意見をまとめ、他の方の考え方を知ることができた。	三塚 及川
<栄養管理講座> ・食生活を見直しながら、食事の重要性や必要な栄養素等を学び、健康への意識を高める。	年2回(夏・冬)、1回1時間を3日間で実施 ○事前に食生活表を記入(食事時間や内容、身体状況、生活状況等)したものを講師に見て頂き、助言を頂く。 ○講座の中で、食や健康に関わる話、季節によっての体調の整え方や食事・水分の取り方などを教えて頂く。	今年度は、筋トレに興味を持っているスタッフが多くいたことで、プログラムの中に筋トレと食事の関係性を織り交ぜて講義していただいた。その時のスタッフの興味・関心ごとに関して、栄養と絡めて話していただけるのはスタッフにとっても刺激のある時間になっていった。今後もスタッフに話を聞きながら講師の飯舘様に相談しつつ進めていけると良	今野 (飯舘)
<避難訓練> ・地震や火事などがあっても落ち着いて避難ができるように準備する	最低でも年2回以上実施する ・様々な災害について確認する ・建物の避難経路を確認する ・実際に1階の建物外に避難(移動)してみる ・近隣の避難場所を確認する	年に2回実施している 内容は毎回同じだがあらためて避難経路、避難場所などを一緒に確認している。 またビル全体での避難訓練にも参加している。	貫洞
<家族交流会・面談> ・普段、情報共有する機会が少ないご家族との面談する機会を作る	・先輩会やイベント実施時にご家族に案内しご家族同士の交流できる機会を作る ・求人応募など動きがあるときに個別に面談を実施する ・普段からメールや手紙で近況を共有する	ほっぶの森フェスティバルにご家族も参加していただき活動の様子を見ていただく機会を作った。 また普段から電話やメールで情報を共有している。	貫洞

令和7年度 就労支援センターほっぷ 年間実施事業報告

	令和7年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和7年1月	2月	3月
利用終了者状況 終了日 →終了後状況 終了者(8名) ・一般就労:4名 ・復職:1名 ・B型:2名 ・満了:1名		・5/16～青葉福祉会	・B型利用のため終了		・8/1～石巻赤十字病院		・10/1～陸上自衛隊(復職)	・11/14～サイコー	・B型利用のため終了	・1/1～仙台ターミナルビル	・期間満了のため終了 →入院	
新規利用者数 紹介元 →利用開始日 (名)	・4/14～ほっぷ卒業生 ・4/17～清山会	・5/7～ほっぷ卒業生	・6/2～名取市基幹相談支援センター	・7/1～東北医科薬科大額病院 ・7/30～清山会		・9/8～らしくワーク	・10/1～内科佐藤病院		・12/3～仙台リハビリテーション病院 ・12/4～内科佐藤病院	・1/5～あぼかぼ		
利用数 出席率(平均者数)	10名→9名→10名→11名 81.8%(8.1名)	11名→12名→11名 82.8%(9.4名)	12名 82.1%(9.9名)	11名→12名→13名 84.7%(10.8名)	12名 86.3%(10.4名)	12名→13名 86.3%(11.0名)	13名 89.5%(11.6名)	12名 85.5%(10.3名)	12名→13名→14名 87.9%(12.0名)	13名 88.3%(11.5名)	13名 85.4%(11.1名)	12名 83.7%(10.0名)
月稼働日数(土、日)	21日(他土、日 2日)	21日(他土、日 1日)	22日(他土、日 0日)	22日(他土、日 1日)	17日(他土、日 2日)	20日(他土、日 2日)	22日(他土、日 0日)	19日(他土、日 0日)	20日(他土、日 2日)	19日(他土、日 2日)	19日(他土、日 1日)	21日(他土、日 1日)
見学者数 (紹介元)	5名 ・直接 ・直接 ・つるがや地域生活支援センター ・内科佐藤病院 ・内科佐藤病院	1名 ・名取市基幹相談支援センター	4名 ・東北医科薬科大学病院 ・太白障福C ・清山会 ・泉病院	1名 ・内科佐藤病院	1名 ・清山会	1名 ・内科佐藤病院	2名 ・内科佐藤病院 ・直接	2名 ・仙台リハビリテーション病院 ・内科佐藤病院	1名 ・仙台リハビリテーション病院	0名	0名	0名
体験利用者数	6名 ・清山会 ・らしくワーク ・内科佐藤病院 ・つるがや地域生活支援センター ・再利用 ・再利用	4名 ・再利用 ・つるがや地域生活支援センター ・名取市基幹相談支援センター ・内科佐藤病院	5名 ・内科佐藤病院 ・東北医科薬科大学病院 ・太白障福C ・清山会 ・内科佐藤病院	3名 ・清山会 ・内科佐藤病院 ・泉病院	3名 ・泉病院 ・船岡支援学校 ・内科佐藤病院	1名 ・内科佐藤病院	1名 ・内科佐藤病院	3名 ・仙台リハビリテーション病院 ・内科佐藤病院 ・船岡支援学校	3名 ・船岡支援学校 ・仙台リハビリテーション病院 ・あぼかぼ	0名	0名	1名 ・再利用
障害者就職面接会	みやぎ障害者合同企業説明会・説明会				みやぎ障害者合同企業説明会	ふれあいワークフェア			みやぎ障害者合同面接会		ふれあいウィーク→参加せず	
模擬面接					・面接会対策講座 ・模擬面接	・面接会対策講座						
セミナー・講習会 企業講話 企業訪問								ドコモ東北(見学、講話)				
個別企業訪問	・青葉福祉会	・仙台市緑地協会	・JR東日本東北総合サービス ・ASAP ・東北電力フレンドリー・パートナーズ ・宮城県図書館	・ウェスティンホテル仙台		・エムズスタイル泉中央 ・サイコー ・丸木医科器械	・英会仙台病院 ・宮城県第二工業高校 ・やすらぎの泉 ・エイジエックフレンドリー ・仙台ターミナルビル ・オオノ	・グローバルワーク上杉イオン ・manaby Creators 一番町				
企業(職場)実習 →経過			・石巻赤十字病院 →採用			・エムズスタイル泉中央 →不採用	・やすらぎの泉 →応募せず ・サイコー →採用 ・仙台ターミナルビル →採用		・グローバルワーク上杉イオン →応募せず	・仙台市産業振興事業団 →不採用		
法人内実習												
ハローワーク活動	随時必要時に活動(失業給付認定日同行含む)											
先輩会		先輩会	先輩会				先輩会	先輩会				
プログラム												
(毎日実施)	グループミーティング(始めのミーティング・終わりのミーティング)、セルフトレーニング											
(週1回実施)	Bトレ、就職に向けて、メモリーノート、文章理解、文章表現、スポーツコミュニケーション(卓球/バレー、バタック/段ボールバスケ、ペットボトルボーリング、卓球他)、ストレッチ、作業と身体											
(月1回程度実施)	コミュニケーション術、仕事について、グループワーク、リズム体操、フロアホッケー、健康プログラム(ウォーキング)											
フリープログラム	5日、13日	11日		7日	9日、23日	6日、21日	19日		6日、20日	17日、25日		28日
(随時実施)	・避難訓練 ・春の行事(動物園) ・オンライン体操教室		・家族交流会	・栄養管理講座 ・夏の行事(映画鑑賞、ゲーム)		・臨床美術 ・オンライン体操教室	・秋の行事(芋煮) ・オンライン体操教室	・オンライン体操教室	・もりのみやこのふれあいコンサート ・ITサポートパソコン講習	・オンライン体操教室	・栄養管理講座 ・臨床美術	・避難訓練 ・オンライン体操教室
家族見学・講習会	※実施なし											
研修生 ボランティア等					・東北福祉大 キャリア ・東北文化大 作業療法 ・東北福祉大 作業療法	・東北福祉大 作業療法						
会議、講習会、研修会等	・月いちカレッジ ・AKG	・月いちカレッジ ・AKG ・就労移行支援事業所等連絡会議	・月いちカレッジ ・AKG ・就労移行支援事業所等連絡会議	・月いちカレッジ ・AKG ・就職者の話 ・サポネットあおばの集い ・知的障害のある人の18歳以降の学びの場	・月いちカレッジ ・AKG ・企業連携 ・よめごと会議 ・地域ネットワーク会議(らしくワーク) ・就労と定着に関する情報交換会@大河原合同庁舎	・月いちカレッジ ・AKG ・障害者就労支援機関情報交換会EXPO@宮城県庁 ・就職者の話 ・関係機関・企業・教育機関情報交換会@エルパーク仙台 ・高次脳機能障害地域支援者研修会	・月いちカレッジ ・AKG ・就労と定着に関する情報交換会@大崎市図書館 ・就労移行支援事業所等連絡会議 ・高次脳機能障害基礎講座	・月いちカレッジ ・AKG ・てんかん研修「知って安心、てんかん」 ・宮城県高次脳機能障害者支援普及事業専門研修会 ・企業連携 ・仙台市障害者雇用促進セミナー ・宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会	・月いちカレッジ ・AKG ・就職者の話 ・就労移行支援事業所等連絡会議	・月いちカレッジ ・AKG ・企業連携 ・サポネットあおばのつどい ・高次脳機能障害全国事業所職員ネットワーク研修会	・ほっぷの森フェスティバル ・月いちカレッジ ・AKG ・地域包括連携ミーティング	・月いちカレッジ ・AKG ・らしくワークサポーター事例報告会 ・はたらポート仙台ワーキンググループ ・宮城就業支援ネットワーク ・就職者の話 ・就労選択支援員養成研修成果報告会 ・なごやかネット ・就労選択支援の最前線と未来 ・よめごと会議
その他												

2025 年度 就労準備支援センターあぼかぼ 事業報告

1. 利用者の推移と方向性

事業開始して 3 年目の 2025 年度は 6 名からスタートしその後 7 名が利用開始し 1 名が地元の B 型事業所に移行し、1 名がほっぷに移行し、1 名が利用中止し、3 月末現在 10 名が利用している。10 名全員が毎日の利用ではないので引き続き見学や体験利用を通して利用者獲得をしていきたい。現在、医療機関、機能訓練事業所などから相談が増えてきている。

2. プログラムの取り組み ※別紙参照

毎日実施している、「朝の会」「夕の会」のほかにも利用者数が増えたことで周りの方とコミュニケーションをとりながら行うものも増えてきた。また社会経験が少ないスタッフも多いので「SST」を実施し具体的な場面に応じたコミュニケーション方法も一緒に確認している。運動プログラムや表現のプログラム、コミュニケーション術、行事など内容によっては就労支援センターほっぷのプログラムに参加し合同で実施しているものもある。

3. ご家族支援

利用開始時や相談支援のモニタリング面談時などご家族とも情報共有する場を作っている。今後の方向性を話す際には一緒に検討していきたい。

4. 各関係機関との連携

利用スタッフは全員、相談支援事業所が関わっているので見学相談の際から情報共有しモニタリング面談時にも一緒に確認していく。また今後の生活訓練からのステップアップ先やタイミングなども一緒に検討していきたい。

5. 職員研修、スキルアップ

仙台市障害者就労支援センター、宮城県事業（受託者：アデコ）、障害者自立支援協議会主催の連絡会議や研修会には積極的に参加し他の事業所担当者と情報交換している。また 2024 年度から仙台市内の生活訓練事業所と独自の連絡会議（通称 SSG 会議）を作り利用者獲得や実施プログラムなど一緒に話し合う機会を作っている。生活訓練事業所を知っていただくためにパンフレットを作成し区役所窓口に設置してもらえるような働きかけもおこなった。2026 年度には合同事業所

説明会を実施しようと準備も進めている。2025 年度も国土交通省の社会復帰促進事業を受託し医療機関とのネットワーク構築や地域連携として各圏域の研修会等にも参加してきた。2026 年度も受託し同様の活動を引き続き実施していきたい。

就労準備支援センターあぽかぼ
サービス管理責任者
貫洞 正一

＜プログラム名＞目的・目標	実施概要	成果及び今後の課題	担当者(講師)
【朝の会】 ○一日のスケジュールを確認し、時間管理の意識を促す。 ○自身の体調と生活リズムへの意識を促す。	●毎日10:00～○日報記入(体調・気分・予定)	●成果 ○体調や気持ちの状態を本人もパートナーも把握することができた。 ○一日の流れや連絡事項等確認できる時間として活用できた。 ○2月から朝の会後に14:00からのぶちセルフ(旧個別ワーク)を行う内容を決める時間を設けることで、一日の見通しをつける時間を作ることができた ●課題 ○個別ワークの活用の仕方の工夫 ○10:30～ほっぷが合同となる時、移動をスムーズに行えるような工夫 ○席を離れる際、机の整理整頓や椅子を引くなどの意識づけ	岩佐 佐藤
【月の目標決めと前月の振り返り】 ○個別	●毎月第一週目 1回/月 ○月初めに、月の目標を決めて目標シートに記入する。 ○目標に向けた取り組み「チャレンジすること」を決め、毎日スタンプを使用して達成を記録する。 ○翌月に取り組みを達成度で振り返る。	●成果 ○毎月目標を決め、日々達成度を確認することで意識づけすることができた。 ○スタンプを使うことで可視化でき、楽しみながら行うことができた。 ○毎月振り返ることで、目標の調整を自分で考えて決めることができた。 ●課題 ○2日間プログラムとして記入の時間を設けたが、休みで参加できないスタッフなどの把握が必要だった	岩佐 佐藤
【SIM評価チェック】 ○個別支援計画の目標への意識を促す。 ○ご自身の目標達成度と進歩・変化を確認し自己理解につなげる。	●不定期、状況にあわせて ○3か月毎にSIM評価シート項目に7段階の自己評価を記入する。 ○自己評価をパートナーと振り返り、項目に対する自己意識を確認する。 ○以前の評価と比較しながら、変化と目標の達成度を確認する。	●成果 ○家での生活の様子や、体調・健康面等、項目ごとに詳しく聞き取ることができるツールとして利用できたように思う ○3か月ごとに定期的に行うことで、前回との変化を確認することができた ○振り返りの時間を設け、個別で面談を行うことでより詳しく話を聞くことができた。 ●課題 ○評価項目の内容や言い回し、評価方法の設定が難しく、少しずつ改定している現状。 ○3か月に1回の実施する時間は取れていないが、新規利用の方などには生活の様子を知るツールとなっている ○定期的に実施するかどのような形で進めていけるかは検討していく	岩佐 佐藤
【制作タイム】 ○手先を使い脳の活性化を促す	●2回/月○ペーパークラフト作成○雑誌の切り抜き	●成果 ○楽しみながら集中力を鍛えることができていた ○自己表現できる場となった ○季節のすだれ作りを新たに加えた。成果物を定期的に入れ替えることができ、単純な作業で比較的参加しやすく共同作業できる内容となった ●課題 ○何を作ればいいのかわからない方の参加方法の検討 ○自由に制作する日とテーマを決めて作成する日など内容の工夫や、選択肢を増やす	岩佐 佐藤
【図書、DVD予約/読書】 ○インターネット	特に関心のある本が思い浮かばない方や、借りた本が検索で探すことができなかったり、自身で本を持参されたりする方も多く、予約する方がいない状況が続いたためプログラムからカットした		★
【映像鑑賞】 ○借りたDVDなどを皆で鑑賞	●不定期○あほかぼろームでDVDを鑑賞する	●成果 ○図書、DVD予約のプログラムがなくなったことに伴い、図書館で借りて鑑賞する事はなくなった ○パートナーの私物のDVDの中から選んで鑑賞したり、レクレーション的に実施した ○自分のおすすめの映画や思い出などを話す場にもなった	岩佐 佐藤
【散歩】 ○体力の向上○気分転換を図る○季節	●1～2回/月 ○目的地を決め歩く ○(図書館まで歩き本の受け取り、返却を行う) ○七夕まつりや元氣塾、ほっぷフェス展示など、季節のイベント等に参加する	●成果 ○参加スタッフから「話しながらの散歩は楽しかった」「周りの風景を見ながら歩いて楽しかった」「気持ちよかった」「ちょうどいい運動になった」「気分転換になった」とポジティブな感想多くあり。 ○福岡図書館、七夕や元氣塾のイベント参加、など、外出に工夫できたことで参加スタッフのモチベーションになっている。 ○錦町公園など近場に散歩に行き時間に余裕があったため、スタッフの希望でNHKにいくなどし、「思ったより楽しかった！」と好評だった ○体調・早退などの事情によって参加できないスタッフは個別ワークやほっぷプログラムの参加で対応できた。 ●課題 ○スタッフの中で体力の差があるため、行き場所や距離を検討 ○猛暑期間が長く、夏場はあまり実施できなかった	岩佐 佐藤
【運動/ストレッチ】 ○体力の向上○筋力アップ	●1回～2回/月 ユーチューブ動画視聴し以下を実施(状況によってマット・椅子を使用する) ○体幹バランス・筋トレ ○ヨガストレッチや瞑想 ○ラジオ体操の振り付けを確認する ○室内ウォーキング ○音楽に合わせてダンス	●成果 ○参加スタッフ全員、動画通りに実行している。動画の手本でわかりやすい運動の内容で実施できた。 ○笑顔で楽しくコミュニケーションをとりながら実施できた。 ○運動を目標にされているスタッフから「適度な運動できた」と感想あり。モチベーションになっている。 ○参加スタッフから「運動した後は体が軽くなった」「リラックスできた」「気分転換になった」「気持ちのいい疲労感」と効果の感想あり。 ●課題 ○スタッフの体調に負担のないメニューの検討と実施前の体調確認を継続。 ○マットではなく椅子で実施したい方への対応	岩佐 佐藤

【脳トレ/ゲーム】○認知機能の改善、維持	●1回～2回/月 ○トランプ（ハバ抜き、七ならべ、ブラックジャック等）やドンジャラ、かるた等を行う ○クイズや、お題あてゲームなど全員で参加できるゲームを行う ○モニターにyoutubeをつなぎ、間違い探しやクイズなどを皆で行う	●成果 ○ルールを守りつつ楽しみながらコミュニケーションをとることができていた ○スタッフ自らやりたいゲームを提案したり、ルール説明を率先して行う様子も見られた ○スタッフ同士でヒントを出し合ったり楽しみながら脳トレすることができた ●課題 ○トランプなど少し複雑なルールのゲームの案が出た時スタッフ自ら「難しくて苦手なので違うゲームでもいいですか」と意見を伝えられる場面もあった。 「これをやりたい」という意見と、難易度のバランスを取りつつ、わからないことや意見を言いやすい環境づくり、声かけを意識する。	岩佐 佐藤	
【PCプログラム】○PC作業を行い技術の習得	●2～3回/月 ○WordやExcel等を使用して文章や表を作成する ○文章の入力や自身のレシート内容の入力 ○Excel、Wordのテキストを利用して練習 ○パワーポイントで自己紹介・事業所紹介の作成	●成果 ○普段あまりPCに触れることがなかったスタッフも、操作の仕方等を学んだり、慣れるいい機会となったようす。 ○テキストを見ながら、実際にデータを作成し進めることが達成感に繋がってモチベーションになった ●課題 ○フリーのタイピング練習ゲームが利用できなくなったため、タイピング練習は主にプリント文字の打ち込みとなっている ○人数が増えたことによりPCが足りなくなることもあり、譲り合って使用した。前半後半で交代して使うなど、対応を考える ○WordやExcelのテキストの後半あたりは実際の業務ではあまり使わないような内容もあり、もっと実用的な内容をたくさん練習したいと希望される声もあった	岩佐 佐藤	
【臨床美術】 ○五感を使い、いつもと違うものの見方や方法で自分を表現する ○楽しみながら脳を活性化させる 【調理】 ○メニュー決め、買い物、調理、片付けの一連の流れを体験し、生活力の向上を目指す ○スタッフ同士で分担しながら作業し協調性を身に着ける	●1回/月 ○外部講師が示す制作の手順で、様々な材料を使用した描画や造形を行う。	●成果 ○各々独自の感覚や色使いで自分を表現していた。 ○何が出来るのかワクワクしながら取り組んでいる様子だった	東北福祉大学 地域創生推進 センター 仙台元氣塾 古瀬 布美子 氏	
	●3回/年○スタッフ間で相談しながらメニューや	●成果 ○メニュー決めの相談や、買い物、調理において協力しながら作業している様子がみられた。 ○楽しみながらコミュニケーションをとることができていた。 ○新しく「ぶち調理」として家でも簡単に実践できるようなレシピを作ってみるプログラムも実施した。「実際に家でも作ってみた」という声もあった ●課題 ○毎回エプロンや三角巾の忘れ物がみられた為、周知方法を工夫していく ○箸やスプーンなどはそれぞれ用意してもらうことも検討 ○季節の行事やイベント準備と被らないようにプログラムを組んだが、実施回数が減ることとなった	岩佐 佐藤	
【作業プログラム】 ○軽作業や事務的な作業など、実際の仕事をイメージした訓練を行う ○自身の集中力の持続時間や、得意不得意を知る	●2回/月 ○動画による仕事紹介 ○事務局の作業（切手の仕分け、袋たたみ、封筒づくり等） ○ピース仕分け、在庫確認 ○PC入力による在庫表作成	●成果 ○ピース仕分け・数数え・在庫確認・PCによる在庫表の作成の実施には「楽しい」「続けてやりたい」とスタッフから感想あり。また作業の苦手にも気づかれて作業を変えながら参加するスタッフあり。 ○事務局からの作業（袋たたみ、切って仕分け、領収書ハンコ押し等）もあり、いろいろな作業体験を提供できた。 ●課題 ○就労希望のスタッフから「仕事のことは知りたいけど、何が何かわからない」と話あり。仕事のイメージにつながるようなプログラムの提供の仕方を検討。 ○フル作業ディ体験的に実施した期間もあるが今後取り入れていくか検討	岩佐 佐藤	
【コグトレ】○運動機能・認知機能の向上を目指す	●1回/月 ○ゲーム形式・作業形式で、運動機能・認知機能に働きかけるメニューを行う。 ○個人ワーク・チームワークを織り交ぜて、楽しいコミュニケーションの時間とする。 ○紐結び、タワー作り（ボトルキャップ・積み木・プラコップ、ボールペン）、豆つかみ、新聞キャッチ、色紙ちぎり等	●成果 ○チーム戦にするなどゲーム性があることで、スタッフが楽しく参加できている。 ○適度な難易度があり、達成感がある。	今野	
【ぶちSST】 ○日常生活・社会生活におけるマナー・立ち振る舞い・場面に応じたコミュニケーションについて知る。 ○自身のコミュニケーションスタイルの自己理解を促す。 ○体験練習を通して具体的なコミュニケーションスキル身に着ける。	●2回/月 ○コミュニケーションゲームの活用。 ○日常生活をテーマとしたグループディスカッション。 ○問題解決のグループワーク。 ○コミュニケーションの目的に応じた型をロールプレイで練習する。	●成果 ○対人スキルに課題を感じているスタッフの希望に応じたコミュニケーションのスキル練習になった。 ●課題 ○実際の場面に般化するための練習には至っていない。スタッフそれぞれの目標・ペースに合わせた場面の提示方法と練習方法を検討。 ○コミュニケーションのスキルの差・理解の差がある中で違いを生かしたグループワークの方法を検討。 →ほっぷの方でSSTのプログラムを実施し始めた為、合同で参加。それに伴いプログラムからはカットすることとした	岩佐	★

【社会生活力】→【今月の掲示板】○社会生活	●2回/月 ○自己紹介シートやいいところ探し、特性チェックシートを利用し自分を知る ○自分の障害を理解し他者への発信の仕方を考える ○自分の強みや苦手なこと、配慮してほしいことを文章としてまとめる ○履歴書記入練習や面接練習（挨拶の姿勢、入退室、質疑応答）を通し、自分に合った社会参加について考えたり、社会的スキルを身に付ける	●成果 ○じっくり時間をかけてとりくむことで、自己理解を深める一助となった様子 ○福祉サービスの種類についてことや、一般就労・障害者雇用の違いなどについても触れることで色々な選択肢があることを伝えることができた ○世の中にはどのような仕事があるのかなど、グループトークすることでさまざまな情報を知る機会となった ○希望者には個別で内容を少し変え実施することでもできた ●課題 ○就職経験がない方や、やってみたい仕事はまだ定まっていないう方には少しイメージしづらいところもあった ○就職を目指している方、目指していない方、社会経験の有無など様々な状況の方にもなるべく合う内容にしていきたい。 ○欠席や来所日の関係でなかなか全員に参加してもらうことの難しさ、続き物として一連を通して使えることが困難だった →以上の課題を踏まえ、「今月の掲示板」として情報発信する方法に変更した	岩佐 佐藤	★
【今月の掲示板】 ○社会生活において使える情報を取り入れる	●1～2回/月 月初めに行う ○月初めのプログラムで掲示板の内容の説明の時間をとる ○場合によってはグループトーク形式や個人ワークの時間とったりする ○上記の内容を1か月間コルクボードに掲示し、いつでも見られるようにする	●成果 ○プログラムに参加できなかった方も掲示板を見ることで内容を知ることができた ○制度・自己理解・マナー・健康等、ジャンルを問わず情報発信できる場となった ●課題 ○掲示板のより有効的な活用方法を考えていきたい	岩佐 佐藤	
【個別ワーク】→【セルフトレーニング】 ○個人の目標に基づき伸ばしたい分野や身に着けたいことに取り組む	●1回～2回（朝夕15分：毎日）○個別で取り組む	●成果 ○各々取り組みたいことや目標に基づいた、自由度の高い時間として活用できていた。 ●課題 ○個別の時間にやりたいことを自ら見つけられる方もいた一方、何をすればいいかわからない方もいたため、個別支援計画に基づきながら一緒に考え提案できる体制を整える。 →以上の課題を踏まえ、「セルフトレーニング」名称を変更し、ホワイトボードにメニュー表と各項目の目的が分かるよう掲示、朝の会終了後選んでもらう形に2月から変更した	岩佐 佐藤	★
【生活力アップ】○生活する上で必要なスキル	●最終週1回/月○ヨガマットの拭き掃除、椅子の	●成果 ○掃除や整理整頓など、生活に直結する内容を体験することで、スキルアップにつながった。 ○周りと協力して取り組むことでコミュニケーションもうまれた。 ●課題 ○人数が増えたこともあり、作業が早く終わってしまうことが多かったため今後やることの項目を増やしていけるよう検討。 ○毎月ルーティン化して取り組んでいることは、パートナーの声がなくてもスタッフが率先してできるようにしていきたい ○市政だよりの受け取り等も組み込んでいくことを検討	岩佐 佐藤	
【夕の会】 ○1日のプログラムを終えて体調の変化を把握する ○プログラム後の感じたことに意識を向け、振り返りをする ○今月の目標で決めたチャレンジチェックの達成度を振り返る	●毎日 ○日報記入（体調、プログラム感想、今日のいちほめ） ○今月の目標のチャレンジチェックシートに達成度のハンコを押す ○明日のスケジュール確認	●成果 ○一日を振り返っての感想や体調の変化に目を向ける時間として活用できていた ○チャレンジチェックシートを活用し、日々の達成度をはかることで自分で決めた目標の意識づけにもつながった。 ●課題 ○14：20～日報記入の時間 14：30～夕の会 と時間で区切り、メリハリをつけて行動できるよう声掛けしていく ○記入が終わったら「終わりました」と報告することを徹底していく	岩佐 佐藤	
【掃除】 ○環境を整え、気持ちよく過ごすための整理整頓の意識を養う ○自分の役割を責任をもって執り行う力を身に着ける	●月、火、木、金 夕の会後 ○モップ、モップサポート、テーブル拭き、ほこり払い、ホワイトボードの役割をローテーションし各自が掃除をする ○掃除が終わったらパートナーに報告をする	●成果 ○掃除当番表を確認しながら、担当の掃除を行うことができていた。 ○掃除後にスタッフ自ら次回の掃除担当の変更を行っている。 ●課題 ○掃除終了の報告が忘れがちなスタッフへの促しが継続している。新規利用のスタッフにも活用できる掃除の流れ手順書の用意を検討。	岩佐 佐藤	
【ほっぷ合同プログラム】 ○普段かわりの少ないスタッフとの交流を通して、新たなコミュニケーションの体験の場とする。	○季節の行事○スポーツコミュニケーション○	●成果 ○ほっぷがスタッフとの交流時間となり、コミュニケーションによって親睦を深めている。相互に声を掛け合うなど関わりが増えている。 ○あぼかぼには無い就職を前提にした話題もあり、ほっぷのプログラムに興味を持ったりするスタッフがいる。		

令和7年度社会復帰促進事業実績報告会 説明資料

事業所名 就労準備支援センターあぼかぼ

令和8年2月26日（木）

1

1. モデル事業者の概要

就労準備支援センターあぼかぼ

所在地：宮城県仙台市青葉区本町1-2-5第3志ら梅ビル4F

運営法人：特定非営利活動法人ほっぶの森

提供サービス：

- ・就労準備支援センターあぼかぼ（自立訓練・生活訓練事業）
- ・就労支援センターほっぶ（就労移行支援事業）
- ・就労定着支援センターほっぶの実（就労定着支援事業）
- ・相談支援センターほっぶの木（指定特定相談支援事業）
- ・TFU Cafeteria Olive（就労継続支援A型事業）
- ・びすた〜り榴ヶ岡（就労継続支援A型事業）
- ・びすた〜りフードマーケット（就労継続支援B型事業）
- ・Café JhoJho（就労継続支援B型事業）

職員数：33名 参考URL：<https://www.abokabo.jp/>

※関連団体：どんまいネットみやぎ（宮城高次脳機能障害連絡協議会）

参考URL：<https://www.donmai-net.com/index.html>



2

2. モデル事業者における病院とのネットワーク構築事例

就労準備支援センターあばかば

●取組の背景・概要

急性期、回復期病院を訪問し医師、相談員、リハビリ担当に社会復帰促進事業について情報提供し現在関わっている患者さんの状況を共有いただく。その際に患者さんの居住地域により退院後に連携できそうな社会資源の情報提供をする。必要に応じて当事業所も選択肢に入れていただき本人、ご家族に説明する機会も調整する。

●令和7年度の取組の効果・前年度からの課題への対応状況等

元々関わっている医療機関を中心に県内の各圏域の医療機関も訪問できている。圏域によっては急性期での受け入れはあるが回復リハができず仙台圏域の医療機関に転院しているケースもあることがわかった。あらためて様々な医療機関にしっかり情報提供していく必要があると感じている。今年度は大崎エリアも訪問でき元々関わっていた方の情報など共有することもできた。今後のつながりに期待したい。またある医療機関からは退院前のケアカンファレンスに出席してもらい社会資源について説明する機会を作っては、との提案もいただいている。今後、実施に向けて調整していく。昨年度の課題であった同じ医療機関への複数回の訪問は関わっている方の通院同行の機会のみでなかなか調整ができなかった。

●課題・次年度以降に向けた改善点

今年度は地域連携にかかる訪問はできたが医療機関への訪問についてうまく計画たてることができなかった。また複数回訪問した医療機関も少なかったのもう少し通院同行の機会も作って医師との情報共有する機会も作ってきたい。



3

【障害福祉圏域】



チラシ「交通事故にあってから「頭がすっきりしない」ことがありますか？」（A4 両面）



**交通事故にあってから
「頭がすっきりしない」
ことがありますか？**

それは高次脳機能障害かもしれません

ほっぶの森では設立以来、多くの高次脳機能障害の方々の
就労に向けてのサポートしてきました。
お気軽にお問い合わせください！

お問い合わせ TEL. 022-797-8801

特定非営利活動法人 ぼっぶの森

国士交通 自動車事故被害者支援センター等設置事業

交通事故にあつた後、頭がすっきりしない、寝ていても頭が痛い、集中力が続かない、記憶力が落ちた、など、高次脳機能障害の症状が現れることがあります。これは、交通事故による脳震盪や脳挫傷によるものです。高次脳機能障害は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。高次脳機能障害は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

交通事故

交通事故にあつた後、頭がすっきりしない、寝ていても頭が痛い、集中力が続かない、記憶力が落ちた、など、高次脳機能障害の症状が現れることがあります。これは、交通事故による脳震盪や脳挫傷によるものです。高次脳機能障害は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

高次脳機能障害

高次脳機能障害は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

支援サービス

高次脳機能障害の方々の支援サービスとして、ぼっぶの森では、脳機能検査、脳機能トレーニング、脳機能リハビリテーション、脳機能相談、脳機能支援などを行っています。

ぼっぶの森

特定非営利活動法人 ぼっぶの森

国士交通 自動車事故被害者支援センター等設置事業

5

チラシ「見えにくい障害 高次脳機能障害」（A4 両面）

**見えにくい
障害
高次脳機能障害**



高次脳機能障害とは、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

症状

高次脳機能障害の症状は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

診断

高次脳機能障害の診断は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

治療

高次脳機能障害の治療は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

支援

高次脳機能障害の支援は、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

高次脳機能障害について

高次脳機能障害とは、脳が正常に働かなくなることによって起こります。脳は、私たちの生活に必要な多くの機能を司っています。脳が正常に働かなくなると、私たちの生活は大きく変わります。

支援サービス

高次脳機能障害の方々の支援サービスとして、ぼっぶの森では、脳機能検査、脳機能トレーニング、脳機能リハビリテーション、脳機能相談、脳機能支援などを行っています。

ぼっぶの森

特定非営利活動法人 ぼっぶの森

国士交通 自動車事故被害者支援センター等設置事業

6

3. モデル事業者における自立訓練提供事例

就労準備支援センターあばかば

●取組の背景・概要

退院後の活動として、学校卒業後の活動として、引きこもりがちな生活を変えたくて、など様々な理由で生活訓練を利用している方がいます。年齢、障害は様々ですが一緒に活動することであらためて自分の症状を知ることができます。まずはしっかり通う、体調を整える、体力をつける、生活のリズムを整える、他の利用スタッフとコミュニケーションをとるなど基本的な生活力を養っていきます。

●令和7年度の取組の効果・前年度からの課題への対応状況等

12名の方が利用しているが高次脳機能障害の他にも若年性認知症、難病、発達障害、知的障害、うつ病など障害は様々で日々の活動メンバーは曜日によっても異なる。年齢も10代から60代と幅広い。基本は集合訓練だが個別でのプログラムも多くなっている併設している就労移行のプログラムもうまく活用しながら実施している。生活訓練を始めて3年目だが卒業するかたも出てきている。一般就労を目指して就労移行に移る方、就労継続支援B型に移りお仕事を始めた方など、あらためてステップアップ先は様々だと感じている。昨年度、いったん復職したが6月で定年退職を迎えた方がいるがあらためての目標決めをして活動を継続している。昨年度から実施している「仙台生活訓練グループ（SSG）会議」は参加事業所も増えながら活動を継続している。今年度の活動のなかで障害福祉サービスの中でも自立訓練の知名度が低いことから関係各所に生活訓練だけのパンフレットを設置しようと現在作成中です。昨年度から実施しているSIM評価は個別支援計画の見直しなど活動の振り返りに活用しています。

●課題・次年度以降に向けた改善点

利用者数は増えているが「交通事故による高次脳機能障害」の方がなかなか繋がってこないで引き続き医療機関や関係機関への案内を行っていきます。

7



活動の様子



9

就労準備支援センターあぽかぽ

高次脳機能障害の方が地域で安心して生活するために、主に仙台市内各区で開催している障害者自立支援協議会のネットワーク会議に参加し普及啓発を行うとともに地域に埋もれている対象者の新規利用につなげていく。また社会参加の一つに一般就労があるのを企業担当者へも高次脳機能障害の理解を進めていく。

昨年度に引き続き、仙台市内で開催している障害者自立支援協議会のネットワーク会議や宮城県内の各圏域で開催しているネットワーク会議に参加し高次脳機能障害の普及啓発を行っている。また各圏域ごとの社会資源も確認し今後のネットワークづくりにも活かしている。

また毎年となくいネットみやと共催している「宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会」では第一部で「日本高次脳機能障害学会」の片岡様をお招きし友会の現状と課題について講演いただき、第二部では新しく発足した「みやぎ高次脳機能障害友会」のみなさんへ対して報告がありました。オudemも含め約150名が参加している。

仙台圏域は支援実績も多く地域で連携した事例も多いが、それ以外の圏域ではまだまだ連携している事例が少ない。圏域ネットワークで高次脳機能障害の普及啓発をするだけでなく連携事例を発表するなど具体的な話をしていきたい。

(参考) その他 地域連携支援

<働いている高次脳機能障害者に対しての本人及び企業支援>

- ・アイリスオーヤマ（小売業）
- ・東日本放送（TV放送局）
- ・清月記（冠婚葬祭業）
- ・仙台にしむら（マクドナルド）
- ・東日本コンクリート（建設業）
- ・ロピア（小売業）
- ・ラテラルキッズ（保育園事業）
- ・東北大学
- ・仙台市
- ・ホットマン（イエローハット）
- ・東北労災病院
- ・シーユーシーホスピス（高齢者介護）
- ・青葉福祉会（高齢者介護）
- ・石巻赤十字病院
- ・自衛隊
- ・サイコー（リサイクル業）
- ・仙台ターミナルビル（ホテル業）
- ・ブルデンシャル生命保険
- ・仙台市市民文化事業団（コンサートホール運営）

11

宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会2025 チラシ

2025年11月29日 13:30-16:15
仙台市医師会館2号ホール

宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会

一般社団法人 どんまいネットみやぎ

022-797-8801

022-797-8802

022-797-8803

022-797-8804

022-797-8805

022-797-8806

022-797-8807

022-797-8808

022-797-8809

022-797-8810

022-797-8811

022-797-8812

022-797-8813

022-797-8814

022-797-8815

022-797-8816

022-797-8817

022-797-8818

022-797-8819

022-797-8820

022-797-8821

022-797-8822

022-797-8823

022-797-8824

022-797-8825

022-797-8826

022-797-8827

022-797-8828

022-797-8829

022-797-8830

022-797-8831

022-797-8832

022-797-8833

022-797-8834

022-797-8835

022-797-8836

022-797-8837

022-797-8838

022-797-8839

022-797-8840

022-797-8841

022-797-8842

022-797-8843

022-797-8844

022-797-8845

022-797-8846

022-797-8847

022-797-8848

022-797-8849

022-797-8850

022-797-8851

022-797-8852

022-797-8853

022-797-8854

022-797-8855

022-797-8856

022-797-8857

022-797-8858

022-797-8859

022-797-8860

022-797-8861

022-797-8862

022-797-8863

022-797-8864

022-797-8865

022-797-8866

022-797-8867

022-797-8868

022-797-8869

022-797-8870

022-797-8871

022-797-8872

022-797-8873

022-797-8874

022-797-8875

022-797-8876

022-797-8877

022-797-8878

022-797-8879

022-797-8880

022-797-8881

022-797-8882

022-797-8883

022-797-8884

022-797-8885

022-797-8886

022-797-8887

022-797-8888

022-797-8889

022-797-8890

022-797-8891

022-797-8892

022-797-8893

022-797-8894

022-797-8895

022-797-8896

022-797-8897

022-797-8898

022-797-8899

022-797-8900

022-797-8901

022-797-8902

022-797-8903

022-797-8904

022-797-8905

022-797-8906

022-797-8907

022-797-8908

022-797-8909

022-797-8910

022-797-8911

022-797-8912

022-797-8913

022-797-8914

022-797-8915

022-797-8916

022-797-8917

022-797-8918

022-797-8919

022-797-8920

022-797-8921

022-797-8922

022-797-8923

022-797-8924

022-797-8925

022-797-8926

022-797-8927

022-797-8928

022-797-8929

022-797-8930

022-797-8931

022-797-8932

022-797-8933

022-797-8934

022-797-8935

022-797-8936

022-797-8937

022-797-8938

022-797-8939

022-797-8940

022-797-8941

022-797-8942

022-797-8943

022-797-8944

022-797-8945

022-797-8946

022-797-8947

022-797-8948

022-797-8949

022-797-8950

022-797-8951

022-797-8952

022-797-8953

022-797-8954

022-797-8955

022-797-8956

022-797-8957

022-797-8958

022-797-8959

022-797-8960

022-797-8961

022-797-8962

022-797-8963

022-797-8964

022-797-8965

022-797-8966

022-797-8967

022-797-8968

022-797-8969

022-797-8970

022-797-8971

022-797-8972

022-797-8973

022-797-8974

022-797-8975

022-797-8976

022-797-8977

022-797-8978

022-797-8979

022-797-8980

022-797-8981

022-797-8982

022-797-8983

022-797-8984

022-797-8985

022-797-8986

022-797-8987

022-797-8988

022-797-8989

022-797-8990

022-797-8991

022-797-8992

022-797-8993

022-797-8994

022-797-8995

022-797-8996

022-797-8997

022-797-8998

022-797-8999

022-797-9000

022-797-9001

022-797-9002

022-797-9003

022-797-9004

022-797-9005

022-797-9006

022-797-9007

022-797-9008

022-797-9009

022-797-9010

022-797-9011

022-797-9012

022-797-9013

022-797-9014

022-797-9015

022-797-9016

022-797-9017

022-797-9018

022-797-9019

022-797-9020

022-797-9021

022-797-9022

022-797-9023

022-797-9024

022-797-9025

022-797-9026

022-797-9027

022-797-9028

022-797-9029

022-797-9030

022-797-9031

022-797-9032

022-797-9033

022-797-9034

022-797-9035

022-797-9036

022-797-9037

022-797-9038

022-797-9039

022-797-9040

022-797-9041

022-797-9042

022-797-9043

022-797-9044

022-797-9045

022-797-9046

022-797-9047

022-797-9048

022-797-9049

022-797-9050

022-797-9051

022-797-9052

022-797-9053

022-797-9054

022-797-9055

022-797-9056

022-797-9057

022-797-9058

022-797-9059

022-797-9060

022-797-9061

022-797-9062

022-797-9063

022-797-9064

022-797-9065

022-797-9066

022-797-9067

022-797-9068

022-797-9069

022-797-9070

022-797-9071

022-797-9072

022-797-9073

022-797-9074

022-797-9075

022-797-9076

022-797-9077

022-797-9078

022-797-9079

022-797-9080

022-797-9081

022-797-9082

022-797-9083

022-797-9084

022-797-9085

022-797-9086

022-797-9087

022-797-9088

022-797-9089

022-797-9090

022-797-9091

022-797-9092

022-797-9093

022-797-9094

022-797-9095

022-797-9096

022-797-9097

022-797-9098

022-797-9099

022-797-9100

022-797-9101

022-797-9102

022-797-9103

022-797-9104

022-797-9105

022-797-9106

022-797-9107

022-797-9108

022-797-9109

022-797-9110

022-797-9111

022-797-9112

022-797-9113

022-797-9114

022-797-9115

022-797-9116

022-797-9117

022-797-9118

022-797-9119

022-797-9120

022-797-9121

022-797-9122

022-797-9123

022-797-9124

022-797-9125

022-797-9126

022-797-9127

022-797-9128

022-797-9129

022-797-9130

022-797-9131

022-797-9132

022-797-9133

022-797-9134

022-797-9135

022-797-9136

022-797-9137

022-797-9138

022-797-9139

022-797-9140

022-797-9141

022-797-9142

022-797-9143

022-797-9144

022-797-9145

022-797-9146

022-797-9147

022-797-9148

022-797-9149

022-797-9150

022-797-9151

022-797-9152

022-797-9153

022-797-9154

022-797-9155

022-797-9156

022-797-9157

022-797-9158

022-797-9159

022-797-9160

022-797-9161

022-797-9162

022-797-9163

022-797-9164

022-797-9165

022-797-9166

022-797-9167

022-797-9168

022-797-9169

022-797-9170

022-797-9171

022-797-9172

022-797-9173

022-797-9174

022-797-9175

022-797-9176

022-797-9177

022-797-9178

022-797-9179

022-797-9180

022-797-9181

022-797-9182

022-797-9183

022-797-9184

022-797-9185

022-797-9186

022-797-9187

022-797-9188

022-797-9189

022-797-9190

022-797-9191

022-797-9192

022-797-9193

022-797-9194

022-797-9195

022-797-9196

022-797-9197

022-797-9198

022-797-9199

022-797-9200

022-797-9201

022-797-9202

022-797-9203

022-797-9204

022-797-9205

022-797-9206

022-797-9207

022-797-9208

022-797-9209

022-797-9210

022-797-9211

022-797-9212

022-797-9213

022-797-9214

022-797-9215

022-797-9216

022-797-9217

022-797-9218

022-797-9219

022-797-9220

022-797-9221

022-797-9222

022-797-9223

022-797-9224

022-797-9225

022-797-9226

022-797-9227

022-797-9228

022-797-9229

022-797-9230

022-797-9231

022-797-9232

022-797-9233

022-797-9234

022-797-9235

022-797-9236

022-797-9237

022-797-9238

022-797-9239

022-797-9240

022-797-9241

022-797-9242

022-797-9243

022-797-9244

022-797-9245

022-797-9246

022-797-9247

022-797-9248

022-797-9249

022-797-9250

022-797-9251

022-797-9252

022-797-9253

022-797-9254

022-797-9255

022-797-9256

022-797-9257

022-797-9258

022-797-9259

022-797-9260

022-797-9261

022-797-9262

022-797-9263

022-797-9264

022-797-9265

022-797-9266

022-797-9267

022-797-9268

022-797-9269

022-797-9270

022-797-9271

022-797-9272

022-797-9273

022-797-9274

022-797-9275

022-797-9276

022-797-9277

022-797-9278

022-797-9279

022-797-9280

022-797-9281

022-797-9282

022-797-9283

022-797-9284

022-797-9285

022-797-9286

022-797-9287

022-797-9288

022-797-9289

022-797-9290

022-797-9291

022-797-9292

022-797-9293

022-797-9294

022-797-9295

022-797-9296

022-797-9297

022-797-9298

022-797-9299

022-797-9300

022-797-9301

022-797-9302

022-797-9303

022-797-9304

022-797-9305

022-797-9306

022-797-9307

022-797-9308

022-797-9309

022-797-9310

022-797-9311

022-797-9312

022-797-9313

022-797-9314

022-797-9315

022-797-9316

022-797-9317

022-797-9318

022-797-9319

022-797-9320

022-797-9321

022-797-9322

022-797-9323

022-797-9324

022-797-9325

022-797-9326

022-797-9327

022-797-9328

022-797-9329

022-797-9330

022-797-9331

022-797-9332

022-797-9333

022-797-9334

022-797-9335

022-797-9336

022-797-9337

022-797-9338

022-797-9339

022-797-9340

022-797-9341

022-797-9342

022-797-9343

022-797-9344

022-797-9345

022-797-9346

022-797-9347

022-797-9348

022-797-9349

022-797-9350

022-797-9351

022-797-9352

022-797-9353

022-797-9354

022-797-9355

022-797-9356

022-797-9357

022-797-9358

022-797-9359

022-797-9360

022-797-9361

022-797-9362

022-797-9363

022-797-9364

022-797-9365

022-797-9366

022-797-9367

022-797-9368

022-797-9369

022-797-9370

022-797-9371

022-797-9372

022-797-9373

022-797-9374

022-797-9375

022-797-9376

022-797-9377

022-797-9378

022-797-9379

022-797-9380

022-797-9381

022-797-9382

022-797-9383

022-797-9384

022-797-9385

022-797-9386

022-797-9387

022-797-9388

022-797-9389

022-797-9390

022-797-9391

022-797-9392

022-797-9393

022-797-9394

022-797-9395

022-797-9396

022-797-9397

022-797-9398

022-797-9399

022-797-9400

022-797-9401

022-797-9402

022-797-9403

022-797-9404

022-797-9405

022-797-9406

022-797-9407

022-797-9408

022-797-9409

022-797-9410

022-797-9411

022-797-9412

022-797-9413

022-797-9414

022-797-9415

022-797-9416

022-797-9417

022-797-9418

022-797-9419

022-797-9420

022-797-9421

022-797-9422

022-797-9423

022-797-9424

022-797-9425

022-797-9426

022-797-9427

022-797-9428

022-797-9429

022-797-9430

022-797-9431

022-797-9432

022-797-9433

022-797-9434

022-797-9435

022-797-9436

022-797-9437

022-797-9438

022-797-9439

022-797-9440

022-797-9441

022-797-9442

022-797-944

5. モデル事業者の取組詳細			就労準備支援センターあばかぼ																
			臨床心理士	公認心理士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	その他											
人材雇用			全体 うち補助金	0名 0名	0名 0名	1名 0名	0名 0名	5名 1名											
求人情報発信			なし																
パンフレット等作成			※今年度作成なし																
備品類導入			なし																
			訪問先名						所在地										
			内科佐藤病院（回復期）（2回）						宮城県仙台市青葉区上杉2-3-17										
			東北労災病院（回復期）（1回）						宮城県仙台市青葉区台原4-3-21										
			仙台リハビリテーション病院（回復期）（1回）						宮城県富谷市成田1-3-1										
			長町病院（回復期）（3回）						宮城県仙台市太白区長町3-7-26										
			みやぎ県南中核病院（回復期）（1回）						宮城県栗田郡大河原町字西38-1										
			大崎市民病院（急性期）（1回）						宮城県大崎市古川穂波3-8-1										
			石巻赤十字病院（急性期）（1回）						宮城県石巻市蛇田字西道下71										
			黒川病院（回復期）（1回）						宮城県黒川郡大和町吉岡字西松木60										
			東北大学病院（急性期）						宮城県仙台市青葉区星陵町1-1										
			東北医科薬科大学病院（回復期）						宮城県仙台市宮城野区福家1-12-1										
			仙台市立病院（急性期）						宮城県仙台市太白区あすと長町1-1-1										
			泉病院（回復期）						宮城県仙台市泉区長倉ヶ丘2-1-1										
			坂元合病院（回復期）						宮城県塩釜市鶴町16-5										
			仙台徳洲会病院（急性期）						宮城県仙台市泉区高玉町9-8										
			仙台医療センター（急性期）						宮城県仙台市宮城野区宮城野2-11-12										
			広南病院（急性期）						宮城県仙台市太白区長町南4-20-1										
			松田病院（回復期）						宮城県仙台市泉区美沢立田屋敷17-1										
			中嶋病院（急性期）						宮城県仙台市宮城野区大鶴15-27										
			美合山台病院（回復期）						宮城県仙台市若林区荒井東1-6-8										
			総合南東北病院（回復期）						宮城県岩沼市星の辻1-2-5										
			齊藤病院（回復期）						宮城県石巻市山下町1-7-24										
			石巻ロイヤル病院（回復期）						宮城県石巻市広瀬字鏡巻2										
			合計22病院（のべ25回）																
			なし																
研修	開催																		
	参加		なし																
施設見学会			1回（参加者3名）東北仙台リハビリテーション病院作業療法士																
その他																			
自動車事故被害者への支援			ネットワーク構築による新規受入件数						0件										
			新規受入予定件数						1件（令和6年2月～3月）										

- 令和8年1月までに行ったネットワーク構築の具体的内容
 - ・宮城県内の各圏域の核となるような急性期病院を訪問している
 - ・交通事故に限らずその背景がいく回復期リハ病院について確認している
 - ・今年度はすでに関わっている方の定期通院時に同行し主治医と直接話す機会を作っている
 - ・運転再開支援について主治医、相談員と一緒に確認しながら進めることができた
- 令和8年2～3月までに行う予定のネットワーク構築の具体的内容
 - ・今年度、訪問できていない医療機関を訪問予定
 - ・引き続き通院同行し主治医と情報共有する
- 令和7年度中のネットワーク構築にあたり特に配慮、工夫を行った点
 - ・仙台圏域以外の訪問の場合、移動に時間がかかるので行政や相談支援機関なども訪問するようにしている
 - ・通院同行の場合、事前に主治医や相談員に連絡をし情報共有できるようにしていた
- 令和7年度中のネットワーク構築にあたり特に困った点、今後の課題等
 - ・仙台圏域以外は公共の交通機関が整備されていない
 - ・できるだけ他の機関も訪問するようにするが事前の日程調整が難しく案内のみになってしまう

5. モデル事業者の取組詳細

就労準備支援センターあぼかぼ

		臨床心理士		理学療法士		作業療法士		言語聴覚士		公認心理士		その他	
人材雇用	全体	0名		0名		1名		0名		0名		5名	
	うち補助金	0名		0名		1名		0名		0名		0名	
求人情報発信	なし												
パンフレット等作成	今年度は作成していません												
備品類導入	導入なし												
	開催	なし											
研修	参加	4/21第5回仙台生活訓練グループ会議@アクセスジョブ仙台						10名					
		6/20第6回仙台生活訓練グループ会議@就労準備支援センターあぼかぼ						12名					
		8/22第7回仙台生活訓練グループ会議@ホプラス						10名					
		10/19第8回仙台生活訓練グループ会議@トコトコベース						10名					
		12/19第9回仙台生活訓練グループ会議@若林障害者福祉センター						13名					
その他													
自動車事故被害者への支援		令和6年1月まで						令和6年2月～3月予定					
	生活訓練	1名 81回						1名 23回					

自立訓練提供

11

15

●令和8年1月までにを行った自立訓練提供の具体的内容 ・昨年度に比べ利用者数は増えているが障害が多様化している ・もともと在宅期間が長い方が多いので体調を整えながら通所できるようなプログラムを実施している ・週2日程度から利用開始している方が増えた ●令和8年2～3月までにを行う予定の自立訓練提供の具体的内容 ・週2～3日利用の方が活動に慣れてきているので利用日数を増やしていく ●令和7年度中の自立訓練提供にあたり特に配慮、工夫等を行った点 ・利用人数が増えたこと、障害が多様化したことで同じプログラムでも実施する場所など環境を確認しながら実施した ・なかなか通所できない方に相談支援事業所と連携し自宅訪問など実施した ●令和7年度中の自立訓練提供にあたり特に困った点、今後の課題等 ・外出プログラムなどで事業所内での活動を希望する方がいて職員が分散するケースが増えてきた ⇒可能な限り対応していきたいので、その都度体制を確認していきたい ・自立訓練終了後の活動先が様々なので見学など訪問する機会が増えていく ⇒相談支援事業所と連携しながら進めていきたい
--

16

5. モデル事業者の取組詳細

就労準備支援センターあぼかぼ

		臨床心理士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	公認心理士	その他
人材雇用	全体	0名	0名	1名	0名	0名	5名
	うち補助金	0名	0名	0名	0名	0名	2名
求人情報発信	なし						
パンフレット等作成	※今年度は作成なし						
備品調入手	なし						
		訪問先名			所在地		
訪問先		名取市高齢者相談支援センター（1回）※計画外			宮城県名取市増田5-13-35		
		宮城県リハビリテーション支援センター（2回）			宮城県名取市美田2-1-4		
		台原地域包括支援センター（1回）			宮城県仙台市青葉区森山公園1-3		
		黒山地域包括支援センター（1回）※計画外			宮城県仙台市青葉区黒山町8-1		
		泉区障害者自立支援協議会（2回）			宮城県仙台市泉区七北田字道48-12		
		宮城野郷害者福祉センター（1回）			宮城県仙台市宮城野区大森16-2		
		宮城障害者職業センター（2回）			宮城県仙台市青葉区中央3-2-1青葉通プラザ14階		
		青葉区障害者自立支援協議会（2回）			宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-25-15		
		泉南地域ネットワーク（1回）			宮城県仙台市青葉区大町129-1		
		仙台市障害者自立支援協議会（1回）			宮城県仙台市青葉区一番町4-11-1		
		仙台市地域ネットワーク（2回）※計画外			宮城県仙台市青葉区一番町4-11-1		
		太白障害者福祉センター（1回）			宮城県仙台市太白区長町南1-6-10		
		自動車事故対策機構（NASVA）仙台主幹支所（1回）			宮城県仙台市若林区御町5-8-3		
		大崎地域ネットワーク（1回）			宮城県大崎市古川駅前大通4-2-1		
研修	開催	若林障害者福祉センター（1回）			宮城県仙台市若林区通見取東8-1		
		仙台市障害者総合支援センター（1回）			宮城県仙台市泉区泉中央2-24-1		
	参加	仙台市障害者就労支援センター（1回）			宮城県仙台市泉区泉中央2-1-1		
		太白区障害者自立支援協議会（1回）			宮城県仙台市太白区長町南1-6-10		
	その他	石巻地域ネットワーク（1回）			宮城県石巻市北村前山15-1		
		合計19カ所（24回）					
	調信	なし					
	参加	なし					
	その他						
自動車事故被害者の地域連携		各圏域のネットワーク会議参加 10件			各圏域のネットワーク会議参加 2件（R 6、2～3 予定）		

地域連携

17

17

●令和8年2～3月までに行う予定の地域連携の具体的内容について ・今年度、まだ訪問できていない地域包括支援センターの訪問を行う ・就労定着支援で関わっている方の支援と合わせて企業担当者と情報交換していく ●令和7年度中の地域連携にあたり特に配慮、工夫等を行った点 ・圏域ごとのネットワーク会議参加時にその圏域から繋がって来た方の具体的な事例などを通して共有するようにしていた ・それぞれの圏域の相談支援の方と繋がるようにした ●令和7年度中の地域連携にあたり特に困った点、今後の課題等 ・仙台圏域以外にも訪問しているが時間がかかる ⇒可能な限り多くの関係機関を訪問できるよう準備が必要

18

6. モデル事業による定量的効果

就労準備支援センターあばかば

自立訓練の利用の有無に関わらず、病院とのネットワーク構築により、高次脳機能障害者の支援につながった人数（うち自動車事故被害者数）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
自立訓練の利用者	0名（0名）	0名（0名）	0名（0名）	1名（0名）
自立訓練の相談者	0名（0名）	0名（0名）	0名（0名）	1名（0名）
自立訓練以外 就労移行支援	0名（0名）	0名（0名）	2名（1名）	4名（0名）

ネットワーク構築

高次脳機能障害者の利用状況（うち自動車事故被害者数）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
自立訓練	0名（0名）	3名（1名）	2名（1名）	6名（1名）
自立訓練以外 就労移行支援	20名（2名）	14名（2名）	14名（3名）	13名（2名）
就労継続支援 A・B型事業所	16名（5名）	15名（3名）	12名（3名）	13名（2名）

自立訓練

他の事業所等との地域連携により、高次脳機能障害者の支援につながった人数（うち自動車事故被害者数）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
復職・再就職者（自立訓練）	0名（0名）	0名（0名）	1名（1名）	0名（0名）
就労継続支援 A・B型事業所	0名（0名）	0名（0名）	0名（0名）	1名（0名）
※復職・再就職（就労移行）	0名（0名）	0名（0名）	9名（2名）	4名（1名）

地域連携

19

7. モデル事業による自動車事故被害者に対する支援事例

※昨年報告した方のその後です

就労準備支援センターあばかば

2024年の状況		自立訓練提供支援			
性別	男性	家族構成	(別居) 配偶者、娘 (配偶者、孫)		
年代	50代	障害者手帳	身体障害1級、精神障害1級	障害者支援区分	4
事故被害者の概要	事故から現在までの経緯	2021年6月に交通事故でA病院(急性期)に救急搬送され、その後2022年2月にB病院(回復期)に転院しリハビリを行う。退院後、自宅でのサポートが困難でサービス付き高齢者住宅に入居する。2022年9月から週3日自立訓練(機能訓練)を利用し機能回復訓練を行う。機能訓練後の活動先として就労準備支援センターあばかば(生活訓練)を見学し2024年1月から週3日利用している(介護タクシーの送迎による)。2024年9月まで休職期間のため10月からの復職に向けて会社との調整を行う。2024年10月に復職し毎月曜日のWEBでの会議参加、毎木曜日は対面での会議に参加している。月曜日と木曜日は会議後にあばかばに通所し活動をしている。そのほか毎金曜日は午前中からあばかばで活動している。			
		連携先 ご家族、相談支援事業所、就労先企業、サービス付き高齢者住宅、介護タクシー			
支援の概要	支援内容	支援のきっかけ 相談支援事業所の相談支援専門員からの相談			
		①機能訓練事業所でしっかりリハビリを行っていたが自宅(サ高住)に帰ると自力歩行せず常に車いす移動になっている。あばかば通所時は可能な限り「歩く」。			
		②自宅(サ高住)に戻るとほぼほぼ介助になってしまうので、あばかば通所時も「やってくれ」と待ちの状態になることが多い。時間はかかっても自分でできることは自分でできるよう一緒に取り組んでいる。			
		③復職前に会社を訪問し通勤経路の導線確認、事務所内の環境確認、デスク周りの整理を一緒に行っている。業務に必要なPCスキルのための訓練は活動の中で行っている。			
結果		④今年6月に定年退職を予定しているので支援を継続し、その後の社会参加と一緒に考えていきたい。			
		生活訓練実施後の社会参加の方法は様々なあると思っていたが就労、さらにその後の活動とその方の希望に沿った支援が必要とあらためて感じている。			

モデル事業により可能となった支援のポイント 通常の生活訓練事業だけでは整うことができない職員体制がとれている。医療機関や地域だけではなく就労先企業にも訪問し連携をとることができている。

20

※今年度の状況

事例	ネットワーク構築支援		自立訓練提供支援		地域連携支援	
	性別	男性	家族構成	(別居)配偶者、娘(配偶者、孫)	障害者手帳	身体障害1級、精神障害1級
性別	男性					
年代	60代					
障害者手帳						
身体障害1級、精神障害1級						
障害者支援区分						4
事故被害者の概要	2024年10月の復職後、毎月曜日のWEB会議参加と毎木曜日の出社しての会議参加を行っていたが、2025年6月に60歳を迎え定年退職となった。復職時から定年退職の際のモチベーション低下などを想定しながら生活環境の変更(サ高住⇒自宅への引っ越し)などご家族、相談担当と検討していた。しかしながら退職後のモチベーション低下は大きくあばかばに過労するも身体を休める時間が多くなった。2025年10月、家族と外食した際に転倒し大腿骨骨折となった。救急搬送されたA病院がネットワーク構築支援でも訪問している高次脳機能障害拠点病院であったことから入院治療時も相談担当を介して状況を共有したいただく。その後、リハビリのため転院をするが転院先が普段から連携をとっているBリハビリ病院だったので主治医(院長)、リハビリ担当、相談員と情報共有していた。2025年11月、入院中に訪問し本人と面談を行う。骨折の痛みが強く車いすでの移動で1日40分×3回のリハビリを頑張っていた。2026年1月に無事退院し現在は通所を再開している。退院時は元々住んでいたサ高住に戻ったが引き続き自宅への引っ越しを検討している。					
連携先	ご家族、相談支援事業所、就労先企業、サービス付き高齢者住宅、介護タクシー A病院、Bリハビリ病院					
支援のきっかけ	相談支援事業所の相談支援専門員からの相談					
支援の概要	①通所(外出)することで生活のリズムを整え体力を維持する ②退院後はトイレや昼食後の歯磨きの際は車いす移動だがそれ以外は見守りの中、杖歩行をする。 ③復職時は勤務先担当と連絡を取り、面談の際には同席し内容を一緒に確認していた。 ④入院の際は体調等を病院に確認し退院後の準備を進めていた。 ⑤退院後は改めて体調、体力を確認しながら支援を行っている。					
結果	退院後、モチベーションの低下があり、また転倒骨折と本人にとって辛いことが重なったがリハビリは積極的に早い退院につながっている。このような本人の頑張りをあばかばの活動にも活かしていきたい。					
モデル事業により可能となった支援のポイント	今回、転倒により救急搬送、リハビリとなったがいずれの病院も連携が取れている病院であったこと、退院後もサ高住、介護タクシーと今までと変わらぬサービスを受けることができていた。引き続き緊急時でも対応できる社会資源を整備していきたい。					

※参考「ほっぷの森フェスティバル」

カーフニグ
イベント

2026年
2月8日
10:00~15:00

ほっぷの森
どんなところ?

トーク 10:00-12:00
「ほっぷの森」の魅力を
お話しします。

分譲プログラム 12:00-
「ほっぷの森」の魅力を
お話しします。

ステージ 14:30-
「ほっぷの森」の魅力を
お話しします。

展示企画
「ほっぷの森」の魅力を
お話しします。

上映上映
「ほっぷの森」の魅力を
お話しします。

障がいのある方の
参加を歓迎しています。

ほっぷの森
フェスティバル
2026

2026年
2月8日
10:00~15:00

ほっぷの森

誰でも気軽に参加できます!
お友達もぜひ! 参加費無料

2026年
2月8日~28日
市内6会場

※参考「ほっぷの森フェスティバル」



23

入口〜（活動の様子や他事業所の案内）



午前の部「月いちカレッジ」



25

午後の部「プログラム体験」



26

卓球バレー

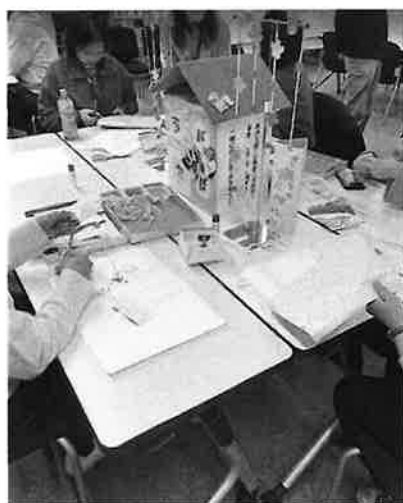


ほっぷカルタ



27

さくらのすだれ作り



マジック体験



28

ステージプログラム マジック



29

ステージプログラム カホン演奏



30

2025 年度 就労定着支援センターほっぷの実 事業報告

1. 支援実施状況

就職活動の際、応募前見学や実習、面接時に同行し企業担当と情報交換する機会を作っている。就労時には就労後のフォローアップ体制について説明している。就労先企業が様々なので支援方法も企業担当と相談しながら決めている。現在、就労定着支援員 2 名体制で支援を実施。就労定着支援事業に関しては報酬改定による影響や支援方法等の変更もなく、昨年同様に月 1 回から数回、その方の状況に応じながらご本人との面談や就労先の方からの聞き取り、必要に応じてご家族や相談支援事業所と情報共有、通院先とも関わりながらサポートを実施した。特に相談支援事業所は就労移行が終了した時点でいったん切れるので就労後の様子を共有しながら就労定着支援の準備を進めている。就労先のほとんどが仙台市内だが 1 名石巻市の方もいる。

2. 利用者実績状況

2025 年度は 13 名で開始。新規利用開始者は 6 名。期間満了で 5 月に 1 名、9 月に 2 名、1 月に 1 名、3 月に 1 名が支援終了している。また 10 月に 1 名離職のため支援終了している。3 月末現在で 14 名が継続支援になっている。全員が就労支援センターほっぷの卒業生だが今後、TFU Cafeteria Olive からの就労者の支援も予定している。

訪問企業：清月記（2 名）、仙台にしむら、東日本コンクリート、ロピア（2 名）、
ラテラルキッズ、東北大学、仙台市、ホットマン、東北労災病院、
シーユーシーホスピス、青葉福祉会、石巻赤十字病院

3. 2025 年度の振り返りと今後の課題

2025 年度も支援で関わっている企業からの新規雇用の求人相談があった。昨年までも他の企業から相談があり、雇用につながったケースもあった。就労している方の安定した働きぶりや支援が入ることでの安心感等が新規雇用の相談につながっていると思われる。

就労定着支援は最長で 3 年間のサービスだが支援終了後に期間満了になるケースもあり就業・生活支援センターなどへの引継ぎも大事になってくる。2026 年度から仙台圏域の就業・生活支援センターが 2 か所になるので連携を取っていきたい。

就労定着支援センターほっぷの実
管理者 貫洞 正一

障害者就業・生活支援センター設置状況

令和8年4月1日現在

くりはら障がい者就業・生活支援センター あしすと

特定非営利活動法人 栗原市障害者就労支援センター

〒987-2252 栗原市築館築師4-4-17
TEL.0228-24-9188 FAX.0228-25-4020

障害者就業・生活支援センター かなえ

社会福祉法人 洗心会

〒988-0002 気仙沼市錦町1-2-1
TEL.0226-24-5162 FAX.0226-24-5169

障害者就業・生活支援センター ゆい

社会福祉法人 恵泉会

〒987-0602 登米市中田町上沼字大柳117-2
TEL.0220-21-1011 FAX.0220-22-1012

障害者就業・生活支援センター Role

社会福祉法人 チャレンジドらいふ

〒989-6117 大崎市古川旭4丁目3-7
TEL.0229-21-7466 FAX.0229-87-8899

障害者就業・生活支援センター わ〜く

社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会

〒980-0011 仙台市青葉区上杉3-3-1
みやぎハートフルセンター3階
TEL.022-797-3763 FAX.022-797-3764

石巻地域就業・生活支援センター

社会福祉法人 石巻祥心会

〒986-0861 石巻市蛇田字小湊24-1
TEL.0225-95-6424 FAX.0225-22-2363

障害者就業・生活支援センター パッセージ

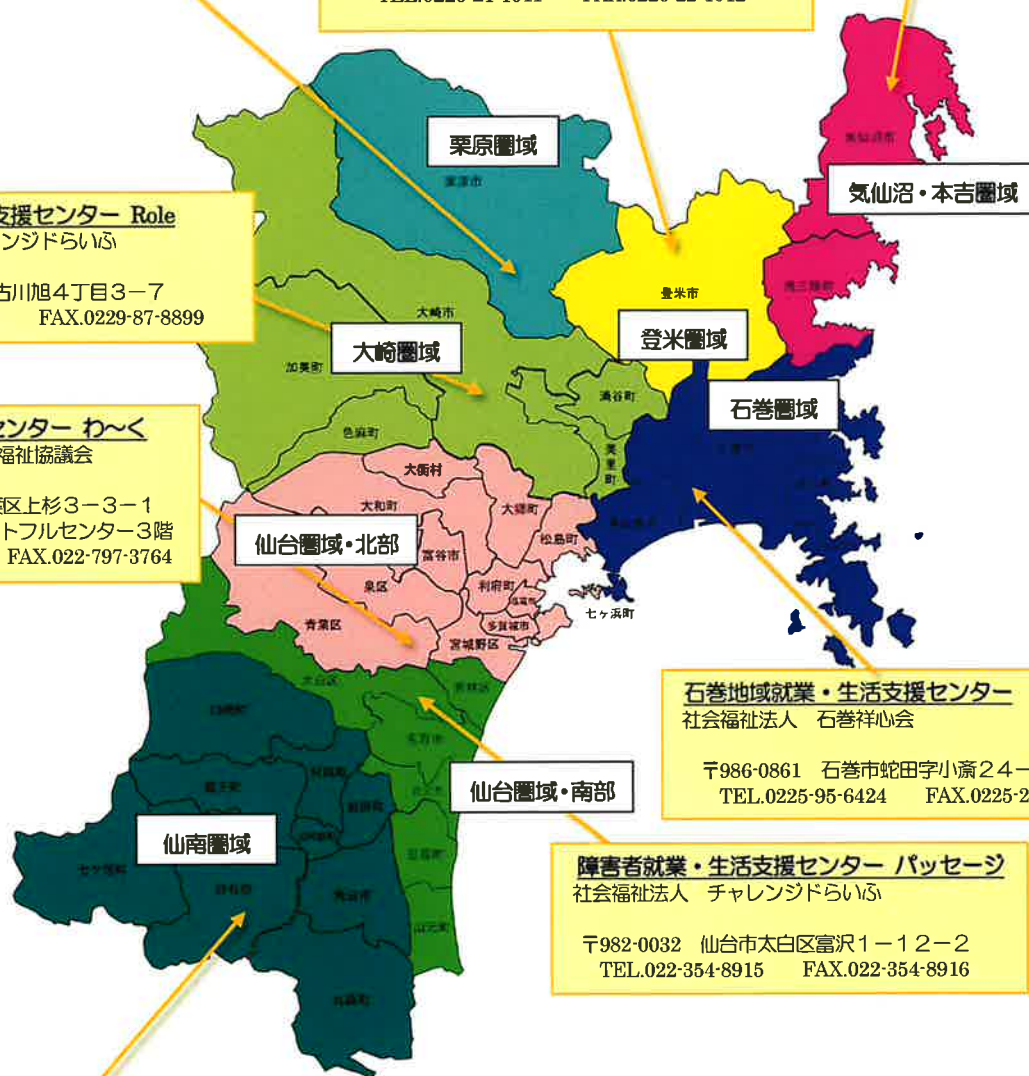
社会福祉法人 チャレンジドらいふ

〒982-0032 仙台市太白区富沢1-12-2
TEL.022-354-8915 FAX.022-354-8916

県南障害者就業・生活支援センター コノコノ

社会福祉法人 白石陽光園

〒989-0225 白石市東町2-2-3
TEL.0224-25-7303 FAX.0224-26-1153



2025 年度 TFU Cafeteria Olive 事業報告

昨年度よりも貸切営業の数も増え、さらなる売上アップを目指して忙しくレストランの仕事に取り組んだスタッフ達。シフトで決められた担当場所で1日1日、目の前の作業に精一杯取り組んでいるうちに、早いね、あっという間にもう次の月になっちゃった…と話しているスタッフも近頃多い。

ランチタイムも休憩時に毎回来ていただいている近隣の会社のお客様に対して、美味しいお料理を素早く提供できるよう考え、無駄のない動きをしているスタッフも多くなったと感じる。

また、売上の伸びに大きく影響する夜貸切に関しても、昨年度よりも貸切のパターンを覚え積極的に会場の準備を行う遅番スタッフも出ており、とても成長を感じる1年であった。

忙しい営業の中で毎月の実施は難しかったが、昨年度は久々にスタッフが全員集まる全体グループミーティングを実施することができた。担当場所が違ってもお互いの目線に立ち、どのようにしたらお互いがスムーズに作業しやすいのか等、改めて話し合うことにより新しい気づきを得られる時間となった。

また、年度末にはなってしまったがOlive初のスタッフ行事を開催している。一人一人考え方や得意不得意は違うけれど、同じOliveの仲間としてみんなで一緒にやってみたら意外と楽しかったねという経験や、みんなが楽しめるようにと考え積極的に行事に携わったスタッフへの尊敬の気持ち、話し合いを進めるにあたり気付いた反省点等がまた来年度の活動に活かされていくのではないかと感じた。

2025年度は久しぶりにスタッフの入れ替えも多かった。収支のバランスも鑑みベストな人数(13名)をキープする形で、退職者3名に対し新しいスタッフを3名採用している。平均年齢も少し若返り色々な経験をもち、力もある新スタッフの存在に刺激を受けている方もいる。また退職したスタッフの中で、これまでも時折調子を崩し休むことはあったが、仕事以外の出来事がきっかけで気持ちのバランスを崩してしまい無断欠勤→休職→リハビリ出勤(短時間)→退職となったスタッフもいた。背景には服薬や家庭環境の問題も絡み合っていたが、精神疾患を抱えながら安定して働き続けることの難しさを実感しそれに寄り添う支援の在り

方を考えさせられる年でもあった。

昨年に引き続き 10 月に一般就労者が 1 名出た。長町びすた〜りから勤続 13 年という長い年月を過ごし、新しい環境にチャレンジすることに不安な気持ちも大きかったと思うが、その後幼い頃から憧れていた職種に近い環境の中で、毎日笑顔で働けていることをとても嬉しく思う。

また、スタッフを支えるパートナーもまだまだ福祉的な経験は浅い方が多いが、少しずつスタッフの特性を捉え、作業の配分が出来るようになって来ている。スタッフと活動を共にしながら日々学びではあるが、今後も調理や接客に取り組みながらも、なるべく学べる機会を作ったり、会議などお互いに顔が見える場面で、困っていること等を気軽に話し合える時間も作りながら、より安定した支援を目指していきたい。

サービス管理責任者

安斎 純子

1. 店舗売上及び訓練等給付費収入、他収入について

① 店舗売上

TFU Cafeteria Olive 2025 年度店舗売上

予 算 40,000,000 円

実 績 42,752,430 円（予算比 107%）

前年実績 38,379,051 円（前年実績比 111%）

びすた〜り榴ヶ岡 2025 年度店舗売上

予 算 17,000,000 円

実 績 15,632,810 円（予算比 92%）

前年実績 15,267,760 円（前年実績比 102%）

② 給付費収入

2025 年度 予 算 30,552,980 円

実 績 31,898,542 円（予算比 104%）

前年実績 22,756,405 円（前年実績比 140%）

・ 令和 7 年度スコア表 170 点獲得による給付費単価アップ

給付費単価 791 単位（令和 6 年度 533 単位）

就労移行支援体制加算 93 単位（令和 6 年度該当無し）

1 日 9,864 円（令和 6 年度 6,235 円）

③ 他収入

スタッフ 3 名卒業により、新規 3 名雇用。

新規雇用半年継続による特別開発給付金収入

1 人年間 60 万程×2 年

2. 貸切イベントについて

① ティータイム

コンサート・発表会 54 件

② ディナータイム

コンサート・発表会 41 件

懇親会 74 件（東北福祉大学関係 25 件）

ムジカデオリバ 41 件

① + ② ⇒ 210 件（昨年 196 件）

土日を中心に音楽や懇親会で利用いただいている。大学内でもオリーブが周知されてきており、各サークル新入生の歓迎会、送別会、教職員歓迎会、送別会、学会後の懇親会など利用が増えてきている。又、教室を利用した 50 名～100 名の大きな懇親会も増えて来ており売上増に繋がっている。

3. 料理について

① オリーブ

1 日 70 名程のランチタイム利用、手作りデザートでのティータイム、10 名～200 名までの個人盛り、大皿盛り、バイキング形式での料理の提供。予約でのお弁当作りやオードブル作りなど、様々なスタイルでの料理を安定して提供することができた。

幹事様と打ち合わせしながら、食事のボリュームや好みを伺い、献立に反映しながら料理の提供をすることができた。又、苦手な食材やアレルギー、きざみ食やミキサー食など、事前に伺うことで対応することができた。県内の支援学校だけではなく、青森の支援学校の皆さんにも喜んでいただいた。

② びすた〜り

ランチタイム、予約でのお弁当など沢山の方にご利用いただいた。お弁当に関しては年間 250 万程の売上となっており、配達等対応に限界はあるが年間 400 万の売上を目指しお弁当事業として成り立つ形（人、物（車）等）を作っていきたい。夜のコース料理、パーティー料理も喜んでいただいている。チラシや SNS 等活用し利用販促に向けて引き続き取り組んでいきたい。

4. 販売価格の見直しについて

資材、原材料の高騰に伴い、食事及び飲物の価格を 50 円～150 円程で見直しを行った。事前に店内に案内を掲示、又みやぎ NPO プラザ様や東北福祉大学様に事前相談しながら進め、お客様との大きなトラブルも無く適正価格での販売を行った。

5. システムの効率化について

QRコードでのお客様注文について、iPad等でのメニュー入力や準備を進めることは出来たが、実践で取り組むことができなかった。次年度実施に向けて取り組んでいきたい。

6. スタッフ1年間の動き

<4月> びすた〜りでは榴ヶ岡公園のお花見シーズンとなり連日満席が続いた。近隣の学校や幼稚園などからのお弁当の予約もかなり増え、力をつけたスタッフ達が前日の準備などにも携わっている。榴ヶ岡公園でOlive初「スタッフお花見」をおこなった。久々に全員が集まり笑顔が溢れていた。雑誌「りらく」「河北新報夕刊」にOliveの記事が掲載された。

<5月> 福祉大ギャラリーミニモリで河北美術展が開催。GW期間中ということもあり多い日には170名を超える来客があった。スタッフ達もかなり力を付け、事前準備をしておくことでデザートや料理を切らず、あまり待たせることもなく提供できている。

<6月> 長町時代から使用しているピアノのメンテナンスの時期が来た。高額ではあるがこれから先もたくさんのコンサートや演奏会が控えている為、弦の張替えを実施。今後増えてくる夜貸切を見据え、Oliveに新しく調理場パートナー(パート)を1名採用。調理場パートナーが4名となりランチタイムはパートさんで回していける体制作りをおこなった。スタッフの全体グループミーティング実施。調理場、ホールの視点から仕事について話し合い、その後それぞれが意識して取り組んだこともあり、互いのやり取りがスムーズになっている場面が見られた。

<7月> 6年勤務した調理場スタッフ1名が退職。調理師免許をもち高い技術をもつ方だったが、ここでの仕事は一区切りとし新しいチャレンジをしたいとのことで先が決まらないままの退職であった。並行してびすた〜り勤務も可能な調理場スタッフ1名採用。6月中旬から無断欠勤となっていたホールスタッフが精神科を受診し、3ヶ月間休職の診断がでて11月まで休むことになった。

Olive ガーデンにテーブルを設置(10 席)。季節は限定されるが外への発信も兼ね、売上 UP を目指していくことにした。DateFM 公開録音の予約あり。ラジオなどで告知され広く宣伝されることになった。

<8 月> びすた〜り調理場内の暑さが厳しい時期となった。熱中症への対策や可能な限り働く環境の整備をおこなった。びすた〜りはシェフが 1 人体制で公休を入れるのが難しい為 3 日間お盆休みの休業日を設けた。

<9 月> ホールスタッフ 1 名が保育園での実習(清掃、おもちゃ消毒等)を行い、10/1 から採用が決まり駆け足での一般就労となった。最初は親の意見もあり消極的だったが、しっかりと自分の意思で考え行動し、とても凛々しい姿で卒業することが出来た。

<10 月> Olive、びすた〜り共にランチやお弁当の価格を改定、その他デザートやドリンク等も一部値上げを行った。6 月から休職していたホールスタッフが金銭的に生活が厳しいとのことで復職を希望。主治医とも相談し 6 週間の時短リハビリ出勤をすることになった。びすた〜りでは学校、会社等から弁当予約が多く、月 300 個を超える注文をいただいた。

<11 月> 欠員補充の為ホールスタッフ 1 名採用。10 月からの時短リハビリ出勤を終えたホールスタッフが復職 2 日でまた無断欠勤となってしまう。有休もゼロとなり今後相談できる機関へつなぎ 11 月末で退職となった。

<12 月> 繁忙期となり Olive では貸切や夜営業 24 件をこなす忙しい毎日が続いた。インフルエンザや風邪、体調不良などで欠勤するスタッフも増え人員が少ない状態であったが、調整しながらなんとか乗り切ることができた。長町時代にお世話になった FM 太
白の取材を受け 1 月に放送されている。

<2 月> ホールスタッフ 1 名採用。これでスタッフが 13 名となった。また 1 月退職した調理場パートナーの欠員補充で 1 名求人を出している。

<3 月> スタッフの知識・能力向上の為の取り組みとして、今年度はほっぷでお世話になっている管理栄養士飯淵先生をお迎えし「栄養管理講座」を実施。健康診断の結果が出たタイミングということもあり、スタッフからたくさんの質問に答えていただい

た。スタッフ行事「映画鑑賞とミニゲーム」を定休日の月曜日1日を使ってOlive店内で行った。6時間ずっとみんなで一緒に過ごすことは初めてのことだったが、みんなで楽しく過ごしたいと積極的に動いてくれた数名のスタッフが中心となり行ったミニゲームが大盛況で楽しい時間となった。

7. スタッフの動き (R8. 3月時点で調理場5名・ホール8名 計13名)

一般就労等に向けての取り組み 2名

- ・調理師免許をもち主にびすたへり榴ヶ岡で活躍していたスタッフ。力を付ける為自分でメニューを考え、仕入れ、仕込み、調理、盛付けまで行う工程も学んでいたが、今後は外で今しか出来ない経験を積みたいという強い意志があり、福祉的要素のない一般求人を探した。本人の希望により早くから5月末で仕事を終えたいと申し出があり、就職先は決まらないままの退職となった。求人の選び方、応募書類作成等のサポートを行っている。(有休消化により R7. 7月退職)
- ・9月にホールスタッフが太白区長町南にある「もりのなかま保育園長町園」で4日間の実習を行った。主に園内の清掃やおもちゃの消毒、おやつとお昼寝時の準備補助という作業内容であったが、元々手先が器用で細かい作業が出来る方(折り紙や細かい塗り絵等が得意)で、園内の壁面制作に力を発揮出来そうだとお伝えしたところ、忙しい保育士の先生方の負担が軽減され大変喜ばれた。まさにジョブマッチングとはこういう事かと実感した。9月末退職、10/1付採用となり6ヶ月間定期的なフォローアップを行った。その後の支援は定着支援事業所ほっぷの実へ引き継ぎしている。

・その他の退職 1名

精神手帳のホールスタッフ。6月中旬から無断欠勤となり、その後病休、3ヶ月間休職、金銭的に生活が厳しいとのことで復職を希望し医師とも相談した上で10月中旬から6週間短時間のリハビリ出勤をおこなった。きっかけはプライベートでの辛い出来事であったようだが、張り詰めていた糸がプツンと切れたように何もかもがどうでもよくなったと話していた。仕事でもそれ以前から前の仕事ぶりとは違う言動やハイテンションさに違和感を覚えたが、家族からの聞き取りでは病院は受診しているものの、暫く自分の意思で服薬していないことが分かった。家族との関係性も悪化し食生活も乱れたせいか内

科的な疾患もあったようだ。リハビリ出勤中もたくさん話はしているが改善は見られず金銭面で困り復職はしたものの、レストランのチームの一員として仲間と呼吸を合わせながら働くことはストレスも大きかったようだ。復職後2日でまた無断欠勤。退職前にOlive以外に困った時に発信できる相談機関へ繋いでいるが、有休ゼロとなり退職となった。

8. パートナーの動き (R8.3月時点で9名)

6月に調理経験もある調理場パートナー(パート7H/日)1名を採用。最初は週4日勤務であったが、調理と福祉的な作業も担当することとなり週5日の契約変更を行った。

R8.1月2年半勤務した調理場パートナーが退職。その後ホールパートナー1名の募集をかけているが未だ採用には至っていない。

9. パートナー研修

計画に基づき3名が研修に参加した。営業も忙しくなり研修参加のハードルが高くなっているが、今後は法人で契約した福祉事業所向けオンライン研修を活用し、短時間でも習得できるシステムを大いに活用していきたい。

- ・宮城県障害者虐待防止・権利擁護研修 1名
- ・アーチル発達障害基礎講座(動画配信) 1名
- ・離職を招く「燃え尽き症候群」の正体と対策(オンライン) 1名
- ・障害福祉事業所における感染症対策一発生時編一(オンライン) 1名

10. 福祉大学実学臨床教育の学生の受け入れ

昨年度より福祉大社会福祉学科4年生1名、3年生1名の実学臨床教育の実習を受け入れている。実習の中で就労継続支援A型で働くスタッフ達にもインタビューをし、12月には研究発表会が行われパートナーもZoomで参加した。

11. 健康診断の実施

2026年2月～3月実施

今年度はOlive、びすた〜りで特定保健指導対象者が5名出ている。パートナーがほ

とんどだった。昼夜通しての営業もあり不規則な生活も一因していると思われるが、健康管理も徹底していきたい。食事加算をとっていることもあり今年度より半年に1回スタッフのBMIを確認しながらの給食提供を行っている。数値が上がり話を聞くとストレスによる甘い物の食べ過ぎ等に気付いたりすることもあった。

12. 避難訓練の実施

5月実施（みやぎNPOプラザ、東北福祉大学と合同）

福祉大の避難訓練では、パートナーと昨年に続き調理場スタッフ1名も参加。大学館内の消化設備等についての知識も得ることができ、飲食店として避難訓練の大切さを実感していた。

2025 年度 びすた〜りフードマーケット 事業報告

2025 年度前年度から継続の 24 名（内 1 名在宅勤務）でスタート。JhoJho へ前年度途中入所したスタッフ 1 名が 6 月より通所できず連絡が取れなくなってしまった。又、体調（精神面）不良により長期休養スタッフが 1 名。JhoJho 通所スタッフの人数が少ない状況となってしまう日が続いていた。関係機関と密に連絡を取りながら対応した。【結局 1 名は連絡が取れないまま退所。1 名はご本人の新たな目標（ピアスタッフとしての生き方）ができ退所となった。】年度末の在籍人数は 22 名となった。

JhoJho スタッフに関しては、問い合わせ、見学、体験と流れができるものの、利用定着までなかなか難しい状況が続いた。（今後の課題）

昨今の原材料値上げにより、びすた〜りファームの野菜を中心に頑張ってきたものの厳しい状況が続き、10 月より JhoJho メニューの値上げとしたが、長町病院職員様の利用が減ってしまい、売り上げが思う様に伸びない状態が続き、工夫しながら売り上げにつながるよう様々な取り組みを試みた。（テイクアウト、新デザートなど）

グループホームから通所するスタッフが増える中、それぞれ安定して過ごすことができています。自分なりのルールを新たに作り出して変化している方など、いろいろな姿が見られたがグループホームを退所する方も無く継続して過ごすことができた。今後も関係機関と連携しながら、安定して過ごせるようにしていく。

2025 年度も季節の変化を肌で感じながら、年々過酷になってくる真夏の暑さも無事乗り切ることができた。

びすた〜りフードマーケット
サービス管理責任者 伊藤敬子

【2025年度スタッフ在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均出勤人数
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退所	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
在籍合計	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	23	22	
平均利用人数(日)	20.5	21.2	21.1	19.6	19.2	19.5	19.2	19.2	18.9	19.6	19.8	19.3	19
退所内訳						J1						J1	

【2025年度3月末現在年齢別在籍数】

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	0	4	4	2	1	1	1	13
女性	0	4	2	0	1	1	1	11
合計	0	8	6	2	2	2	2	22

(2025年3月現在)

	ファームの 野菜 (店舗、Jho)	たけのこ 水煮を含む	筍ご飯の 素	惣菜 (店舗、Jho)	デザート (店舗、Jho)	ジャム・ド レッシング (店舗、Jho)	漬物 (店舗、Jho)	オードブル 他 特別注品	びすた〜 り、olive 惣菜
2017年度	¥469,584	¥65,290							
2018年度	¥446,765	¥235,580	¥21,200						
2019年度	¥373,061	¥171,540	¥30,400						
2020年度	¥266,410	¥156,090	¥48,050	¥278,630	¥140,600	¥37,600	¥104,410	¥89,000	
2021年度	¥361,263	¥133,090	¥52,330	¥214,110	¥185,400	¥31,750	¥57,450	¥70,200	
2022年度	¥256,822	¥241,340	¥41,050	¥267,173	¥251,550	¥25,500	¥74,430	¥12,000	
2023年度	¥343,090	¥185,600	¥24,450	¥123,340	¥307,200	¥34,300	¥81,380	¥28,700	¥621,180
2024年度	¥400,440	¥261,350	¥33,000	¥176,880	¥259,300	¥24,600	¥77,510	¥39,000	¥549,650
2025年度	¥469,940	¥252,200	¥22,850	¥271,190	¥265,400	¥48,550	¥62,830	¥47,000	¥377,100
備考		裏年		筍ご飯、冷凍総 菜を含む	パンナコッタ チーズケーキ カタラーナ 3月より新物	ジャム、ソ ース、ドレ ッシング、 梅ジュース	ラッキョウ 梅漬け 季節の漬物	お弁 当等	牛スジ カレー ハンバ ーグ等

各現場の報告

1. 畑作業 事業報告

猛暑の日も熱中症対策を行いながら、体調を崩すスタッフも出ることなく力を合わせて作業することができた。施設外就労（4 人～5 人）は繁忙期のみ隔週で週二回、通常は毎週火曜日（天候等により木曜日に変更あり）に実施した。

① 栽培

葉物、人参、大根、玉ねぎ、じゃがいもを中心に栽培した。また、長ねぎの栽培にも取り組み、安定して収穫できた。

玉ねぎはたくさん収穫できたものの、気温の上昇が続き、保管している間に傷んでしまうことがあった。毎年保存に関してが課題となっている。

② 収穫

玉ねぎやじゃがいも、葉物などの定番野菜の収穫量は安定し、販売用と調理用のバランスを取りながら、各部門で連携を図り収穫している。

人参や大根などは土中保存し、無駄のないように使用することができた。ヤーコンは熟成している間に食害や温度管理が難しく腐らせてしまう物もあったため、対策（杉の葉で囲むなど）をしながら土中保管していく。

2. 店舗

コンセプト

びすた〜リファームで収穫した農薬化学肥料不使用のおいしい野菜を提供、販売。

近隣の農家さんから仕入れた野菜の販売を行う。

① 野菜の販売

収穫した野菜を調理用と販売に選別、バックヤード調理場と連携し B 品は調理で利用した。Olive、びすた〜りに野菜の納品を週 1 回、ほっぷパートナー野菜の注文配達毎週水曜日が定着した。

大根、ニンジン、レタス、菊芋、ニラなどお客様にも喜んでいただけた。

② 店舗担当スタッフ交代

年度途中長くかかわったスタッフ 1 名がバックヤード作業に移ったことで、バックヤード作業をしていたスタッフ 1 名と交代し、初めての仕事を少しずつ覚えながら継続した。

③ 外販、移動販売

毎週木曜日に長町界限、金曜日は近くの美容室に移動販売継続した。

広瀬川灯籠流し・・・店舗前で販売。水ヨーヨー、食品など短時間集中型で販売をした。

④ 仕入、オリジナル商品の販売

- ・毎年作っていた干し柿チップは Ai さんが仕入れをし自社パッケージでの販売を初めて行いすべて売り切ることができた。

- ・たけのこご飯の素の販売や JhoJho でのパックご飯で販売することで定着し完売した。

オーサワ商品

- ・毎月発注し。固定客の方には事前に連絡をして注文を聞くようにした、近くの方には配達を行った。(車)

戸叶農園さん

- ・昨年度から継続して、直接受け取りに行く形となり、色麻町のため、なるべく売れ筋の物やお米、豆などを仕入れた。高齢のため作付け品種は減ってしまった。

赤路農園さん

- ・畑での野菜づくりを継続。(週末対応)

- ・柿の収穫や梅の仕入れも継続。

※赤路農園さんと戸叶さんはなるべく同じ日に対応できるようにした。品目などは年々減少している。

やさい村農園

- ・世代交代の時期となり、年明け 2 月から配達終了となった。トマトなど主力商品について交渉していく。

山路農園 (主に慣行栽培、レタスなど農薬不使用や減農薬の物もある)

規格外の玉ねぎを大量に仕入れ、調理に利用した。

太田農園 (茂庭台の梅園) (矢吹理事様より紹介)

- ・いろいろな種類の梅の収穫が可能な場所。

今回は完熟の収穫をさせていただいた。時期や品種が選べるメリットがあった。

季節の商品

- ・ 筍（裏年）、梅、ラッキョウ、柿（干し柿、チップ）など、季節の野菜を売っている場所として時期に来店されるお客様が定着した。筍は裏年だったが、定着したことで、生で買うお客様が来店して好評だった。水煮も安定して売り上げた。
ゴールデンウィークに、びすた〜り、olive にも協力していただき、店内で販売していただいた。
- ・ 柳生の梅は実があまりならず、赤路農園お知り合いや矢吹理事様より紹介の梅園で収穫をして仕入れることができた。梅漬け、梅ジャム、梅ジュースの加工し販売したり JhoJho のメニューに入れて提供した。
- ・ 柿は、柳生、赤路農園お知り合いや干し柿用として販売し好評だった、干し柿チップも作り、A i で仕入れていただきオリジナル商品として販売していただいた。
残念なことに収穫後、熊対策で柳生の柿の木（渋・甘）は 2 本とも伐採となってしまいスタッフも楽しみにしていた柿の収穫が来年度からできなくなってしまった。
- ・ セリは、年末までは仕入れが安定していたが、鍋シーズンの時期に入荷が 3 月までストップしてしまい残念だった。

3. フードマーケット調理場

① JhoJho の料理、惣菜作成について

- ・ 原価高騰になっており、びすた〜りファームの野菜を使いながら製造。週の初めにジャガイモの皮をむいて、ジャガイモ料理、もやしや豆苗を小鉢などに利用した。
引き続き olive、びすた〜り向けのハンバーグ、牛スジカレーを製造、卸を行った。
びすた〜りさんはカレーのみの仕入れのみとなった。スタッフの仕事としては、玉ねぎの皮むき、真空作業など行った。

② 調理場内のスタッフの作業について

フードマーケットの調理場で作業するスタッフは昨年度と変わらず、それぞれ安定して仕事をしている。包丁を使って野菜を刻む作業も口頭の指示だけででき、その出来栄も良くなっている。また HACCP の記録も忘れずに記入してくれて大いに助かった。調理場スタッフ増がずっと課題となっている。

③ 売上向上とコスト削減などへの取り組みについて

原材料高騰への対応策としてランチメニュー作成での肉、魚の主材料の使い方を工夫した。具体的には揚げ物の回数を減らし油を節約する事、肉、魚の一人当たり使用量を減らす代わりに野菜を増やし料理自体のボリュームや見栄えは変わらないようにした。こうした積み重ねで食材原価を抑えるようにした。また畑での収穫作業やバックヤードの作業との連携を行った。

④ いろいろな備品が老朽化している中、外冷蔵庫が壊れてしまい、新しくリースで設置した。メンテナンスも定期的であり、安心して使用している。

4. バックヤード（2階での作業）

スタッフ皆が長年バックヤード作業をしているため、ある程度勝手もわかってきている。階段の上り下りに関しても、自分で買い物かごを準備して危険のないように降りるなど自発的に行えている。

作業の際の準備、片づけ（椅子の片づけ、机の移動、ビニールシートの準備など）も極力スタッフが自主的に進めるように心がけた。自発的に動くことが難しいスタッフに対しては最低限の声かけ、重いものを持つのが難しいスタッフには机拭きやシートたたみなどスタッフの特徴に合わせた作業を行うようにした。

① 収穫、仕入れた野菜・・・選別、計量、袋詰め、値札貼り付け作業など、スタッフを分担して作業を行った。

選別は大まかな選別から細かい選別まで、スタッフの得意な物に応じて流れ作業で担当してもらい、最終的にパートナーが最終チェックを行うよう心掛けた。

計量については指定した重さを記憶に留めておける為、以前のようにメモ用紙に書いておく必要もなくなっている。袋詰めに関してはニラなどばらけてしまうものが袋からはみ出て終わりにしている時もある為、今後も新聞で包みながら入れるなど練習していき、きれいな仕上がりになるようにしていく。

※セリ

販売用のセリは毎週 1/3 カゴペースで仕入れていた為選別の時間もあまりかからずに来た。いな穂様用のセリも選別済みのものをそのまま配達。

② JhoJho 食材用野菜の下処理

野菜の皮むき、セリの根っこ切り等。選別や計量よりも好きなスタッフが多く、積極的に引き受けてくれた。必要な道具なども準備し、すぐに取り掛かることが出来ていた。今後の課題として、どうしても時間を気にせずマイペースで進めてしまうことが多いので、締め切りの時間に間に合うように取り組めるような支援を考えていきたい。

③ 内職作業・・・今年度はなし。セリの入荷がない場合や収穫の谷間の時期などに行えるよう、検討していく。

④ 袋の作成

収穫物が多い時期などにはまとまった量を作れないため、野菜の作業が少ない時期に作りためをしておく。工程の最後まで折ることが難しいスタッフには工程を分け、途中の簡単な折り作業までを担当してもらうようにした。筍のシーズンには大きい袋を大量に使う為、来年以降は春までに十分な在庫を確保できるように準備しておく。また、JhoJho の売店で使用する紙袋作りも並行して行った。

⑤ 在宅勤務の仕事

買い物で使用する手作り新聞紙の袋に貼るカメのシールづくりを行う。週3日1日2時間程度の作業で月に1回フードマーケットにシールを届けながらお話を伺っている。シールはその後、フード JhoJho スタッフが色塗りをして張り付けている。皆好きな作業になっている。

⑥ その他

- ・作付け用の種まき…今年度はなし
- ・外冷蔵庫掃除、駐車場草取り…定期的に実施。

5. C a f e J h o J h o

2025年度もスタッフ複数名の長期間欠勤や入院、調理場スタッフ2名の退所など人手不足を感じながらの1年だった。

前年度に目標としていた価格変更は、10月にランチ・ドリンクを50円値上げを達成できたが、主に職員様の来店は減り食数が40〜70台と停滞し、思うように売り上げが増加

しなかった。売り上げを伸ばすために、お肉・お魚・惣菜2種類のテイクアウトの開始や新しいデザートを提供を始めた。

店舗は今年度も席数は減らしたまま営業し、感染防止対策を継続した。

検温は、引き続き自宅と JhoJho での検温をお願いし表に記入していただき、体温や体調の変化がある場合は経過観察し早く不調に気付けるようにした。

作業後の休憩室での密も避けるように時差出勤を継続した。

① 利用状況

6月7月は混雑する日が多くあった。繁忙時間は店内入り口も混みあうため、換気も兼ねて、店舗入りロドアを開けておくことで、入店を迷っているお客様へお声がけしやすいようにした。職員さんは混雑を避け少し時間をおいてから再来店していただけた。病院関係者様の他、一般のお客様の利用が増え、ドリンク・デザートの利用が増えた。

お席待ちのお客様に関しては、事前に注文を取ることで席に着いたらすぐに提供されることが浸透しているので、待たずに帰るお客様はほとんどいなかった。

アレルギーがあるお客様や糖質制限をしているお客様に他メニューのお食事を準備したり、ごはんの計量や、サラダに変更、高齢のお客様には刻みの対応などお客様が離れないよう柔軟な対応を行った。

売店利用は、はなみずき入居の常連のお客様、一般のお客様、職員様にもご利用いただけた。はなみずき入居者の方の他にも、ご高齢のお客様も多く、物忘れなども増えており必ずメモを取ったり、お席での先会計などを行いトラブルを避けた。

お席に着く際にパートナー対応が必要なお客様もおり他のお客様への対応がおろそかになったり、料理やドリンクの提供が遅れるなど苦情にならないよう努めた。長町病院通院のお客様で尿漏れや強い尿臭があるお客様が定期的に来店。椅子や座る席など工夫し周りのお客様が不快にならないよう配慮をした。

② スタッフの状況

今年度はパントリー1名、調理場3名のスタッフが入院や自宅療養、行方不明など長期の欠勤をした。また調理場2名のスタッフが退所し、調理場のスタッフが安定しない日々が続いている。退所した1名は依存症や摂食障害と向き合いながら JhoJho で過ごし、長期の入院を経て「人生の目標」を見つけることができたと言った前向きな退所であった。

わんすてっぷ様（手帳を持たず、就労経験が浅い方や間が空いた方の支援）を通しての

体験や問い合わせなど8名の体験を行った。

利用に向けて体験予定していても来れなかったり、体験日数を残して辞退されたりと1名も利用に繋がることなく終わってしまった。

3月末現在、JhoJho 専属スタッフは毎日出勤のスタッフが4名、週4出勤のスタッフが1名、週3出勤のスタッフが1名の6名。FMから火曜日と木曜日 JhoJho フル出勤スタッフが1名、FMから1h助っ人スタッフ6名で対応した。

安定して通所出来るスタッフ、目標日数通りに出勤が難しくなっているスタッフ、体調の変化があり休憩をするスタッフがいる中、任せられる仕事を増やせるように新しい作業にも挑戦した。一人ひとりしっかり力を付けることができた。出来る事が増えたことで負荷がかからないように繁忙時間帯以外は自分のペースで休憩の回数・時間を決めて無理のないように過ごした。

JhoJho 在籍スタッフ一人ひとりの作業量増加やスピードアップは現状をキープすることが目標となっている。

また、週5日通うことが難しい方、精神的な部分で体調が安定しない方もおり、FM のスタッフ・パートナーの力を借りなければ難しい現状は変わらない。

スタッフが充実感や安心感の中で過ごせるようにパートナーが共通意識を持って支援するように心掛けた。

スタッフ配置人数状況 (3月末現在)

	ホールフル	調理場フル (短時間)	パントリー洗い物 12時半～15時	FM助っ人 12時～13時
月	3名 11:30～16 1名	1名 10:00～11:00 1名	1名	2名
火	3名	1名 14:30～16:00 1名		3名
水	4名	1名		2名
木	4名	1名 14:30～16:00 1名	1名	1名
金	3名 10～14 1名	1名 14:30～16:00 1名	1名	2名

③ ホール・パントリー

お肉とお魚はご飯・味噌汁がお盆に載った状態の配膳はホールスタッフ2名、1名が3月から練習を開始。荷物が多いお客様やテーブルが狭い場合などはパートナーが配膳した。

ご飯・味噌汁のお替りのお客様へ丸お盆でお持ちすることは今年度も練習し任せられるようにはなった。

接客以外の仕事として、野菜や販売商品をフードマーケットに取りに行く（JhoJho便）。

伝票の色塗りや値札切り。一つの作業の継続が難しい方には何種類かの作業を準備し選びながら作業してもらうことは継続して行った。売店商品用の新聞袋に貼るカメさんシールの色塗りはスタッフの楽しい作業にもなっており、お客様からも喜ばれている。

④ 調理場

メニューは継続し日替わりの肉、魚セット、定番として、カレーライス、季節で変わるう～めん、う～めんダブルを提供した。

ランチ前の時間にご利用いただける「鶏がゆ」と「トーストセット」は楽しみに来てくれるお客様、検査の為に朝食を抜いてきた患者さんから大変喜ばれた。

単品でのご注文や、ソースなし、汁を薄めて、酢を付けて、細かく切ってなどお客様からの要望にできる範囲で対応した。

ごはん味噌汁をよそう作業は、ご飯の量の指示が細かく味噌汁も多めの注文や、おかわりもあるため対応力とスピードが求められ、担当スタッフ退所以降パートナーが対応している。

準備、盛り付け、計数、片付けなど一日の作業をスタッフが行えるようになったためお任せしているが、最終確認はパートナーが行った。

メイン料理の盛り付けでは、個包装になっているものはスタッフ1人でも盛り付けが出来た。

大袋で計量しながらの作業は、複数種類の具材が入っていると肉だけや野菜だけのように偏ってしまうため難しかった。出勤人数やメンバーに合わせて工程など考えFM調理場と連携し、スムーズに提供できるようにした。

3月からキャロットケーキとスコーンの販売を開始し好調に売れている。現在は色々試しながらの仕込みなのでパートナーのみで作業しているが、少しずつスタッフが関

われるように作業の細分化を行っていく。

スタッフの仕事として野菜の皮むきやカット作業を FM と連携しながら用意できるようにした。また、味噌汁の具材作りなども行った。包丁の練習中のスタッフは、切りやすいネギやセリなどを見守りながら行っている。

衛生面に関しては、手洗い・消毒の習慣が出来てきている。作業途中の声掛けでも出来るようになったが、洗いはパートナーからの声掛けがないと指先を水に触れさせるのみで終わらせてしまうケースも度々見られる。

同じ皿や箸を使ってしまうため、使い終わったものを置く場所を明確にして使い回しをしないように徹底した。

HACCP の記録をスタッフの仕事にすることで衛生面を意識し気を付けていけるようにした。

⑤ 価格変更

2025 年 10 月から、お肉・お魚・JhoJho セット・カレー・う～めん・鶏がゆ・トーストセットと全ドリンクメニューを 50 円値上げ。デザートは値上げせずに様子を見ることにした。

6. 年間行事

・季節の行事・・・団子をたべよう！！(5月)

カレーを食べよう！！(8月) 芋煮を食べよう！！(11月)

お餅を食べよう！！(1月)→もち米が手に入らず、ジャガイモ餅で代用したが好評だった。

・環境整備・・・3月より商店街の取り組みとして、毎月第2金曜日早朝に掃除をする

取り組みが開始となったが、早朝は難しいため、第2木曜日に店の周

りなど含め10時から掃除を始めた。

・支援計画面談・・・年間各スタッフ2回

・検便・・・・・・・・4月、10月(年2回)

・避難訓練・・・火災、地震、水害(長町小学校まで避難) FM、JhoJho

びすた〜り榴ヶ岡
 令和7年度

利用人数

月	利用人数	稼働日	1日平均
4月	949	22	43
5月	869	22	40
6月	789	21	38
7月	772	22	35
8月	619	19	33
9月	804	22	37

月	利用人数	稼働日	1日平均
10月	919	24	38
11月	787	21	37
12月	820	22	37
1月	670	19	35
2月	709	20	35
3月	827	22	38
合計	4,732	128	37

お弁当予約

お弁当 予約	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	
	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数
800	1	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	23
1,000	12	175	8	82	4	55	6	65	2	12	5	88	3	31	3	72	0	0	1	46	1	3	2	28	47	657
1,100	0	0	1	18	2	64	2	36	0	0	3	78	1	28	3	42	0	0	0	0	0	0	0	0	12	266
1,200	0	0	1	11	0	0	0	0	2	26	0	0	3	75	4	44	9	80	2	14	3	17	7	117	31	384
1,500	3	24	1	2	3	33	2	11	3	15	1	26	3	106	2	40	6	112	3	96	3	13	2	85	32	563
1,650	0	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	2	66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	77
2,000	1	18	1	10	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	1	16	4	22	1	7	2	11	1	1	12	96
2,500	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	1	15	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	36
4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	0	0	1	15
合 計	17	240	12	123	9	152	12	129	8	64	10	207	13	321	13	214	19	214	7	163	10	59	12	231	142	2,117

貸切

貸切予約	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
ティー	0	0	0	0	2	32	0	0	0	0	1	24	1	15	1	22	1	20	0	0	0	0	1	15	7	128
ディナー	5	72	1	10	4	40	0	0	1	11	0	0	1	16	1	13	1	22	0	0	1	14	1	15	16	213

2025 年度 相談支援センターほっぷの木 事業報告

1. 状況

相談支援専門員二人体制で実施していたが 12 月に専任の相談支援専門員の退職に伴い、令和 8 年 1 月からは、これまで兼務で従事していた平山が専任となり一人体制で実施。

毎月、新規での計画相談の問い合わせがある状況。法人内の新規利用の方への対応を優先しながら、対応できる件数を調整。1 月から 1 名体制になるに伴い、ほっぷの森で関わっていた方を中心にご本人の希望も確認しながら 16 名を引継いだ。これまでの担当と新規で 23 名の登録。

2. 対応実績

実登録者数は、令和 7 年 12 月末で 71 名（うち新規 4 名）。令和 8 年 3 月末で 23 名（うち新規 2 名）。

年間の各対応件数と給付費収入額に関しては以下の表の通り。月によつてのモニタリングや更新者の人数の違いやリプラン、通院同行、他の加算対象対応等により、ばらつきが出るが、一人一人の状況を把握しながら、突発的な状況への対応もできるように心がけてきた。

<各月の件数と給付費額>

	継続支援(モニタリング)	利用支援(更新)	月合計	給付費収入額
4 月	24 件	4 件	28 件	¥514,890
5 月	23 件	5 件	28 件	¥490,937
6 月	17 件	8 件	25 件	¥455,878
7 月	25 件	3 件	28 件	¥513,356
8 月	23 件	3 件	26 件	¥477,552
9 月	20 件	8 件	28 件	¥535,451
10 月	19 件	3 件	22 件	¥417,701
11 月	22 件	2 件	24 件	¥425,698
12 月	19 件	5 件	24 件	¥446,337
1 月	12 件	2 件	14 件	¥270,467
2 月	7 件	4 件	11 件	¥193,143
3 月	8 件	2 件	10 件	¥153,797
合計	219 件	49 件	268 件	¥4,895,207

3. 対応状況

障害に関しては、知的・精神・高次脳・身体・難病・若年性認知症と障害種別を問わず対応。

年齢層は20代から70代と幅広い。特にほっぷの木の立ち上げから関わっている方は本人だけでなくご家族も高齢になってきており、グループホームへの入居等、サービス変更や介護サービスの検討が必要な方もおり、介護サービス事業所や地域包括支援センターとの連携が必要であった。

日々の変化の把握や適切なサービス利用のために、訪問や面談により、ご本人やご家族の希望する生活を聞き取りながら対応に努め、必要に応じて、モニタリング実施期間の見直しも実施した。

11月に他の相談支援事業所より引き継いだ方が、入居先（グループホーム）での虐待の疑いが見られ、危機感を感じたご家族から退去し避難したいとの申し出があり、年が明けた1月に関わっている機関からの紹介で一時的に居宅に避難し、新たな住居先（アパート）を探すとともにサービスの変更等を実施した。状況が落ち着くまで訪問や面談を重ね、区役所や相談基幹センター、関係機関等様々な所と相談連携しながら対応した。一人体制になってからの対応で大変ではあったが、様々な学びの機会でもあった。

4. 他機関との連携・会議や研修会の参加

上記の対応の方以外にも、障害福祉サービスの他に本人や家族の高齢化に伴い、多方面から生活環境を整える必要性もあり、介護保険サービス事業者や地域包括センター等との連携も重要性が高かった。そのため、フォーマル・インフォーマル問わず、行政・医療・包括・就労等と連携を取りながら支援を実施。また、各区の相談支援連絡会議等に参加し、情報の共有や連携の取りやすい環境作りや自立協等にも積極的に参加しながら、地域のことも学びながら対応できるように心がけた。

・参加会議、研修

仙台市障害者自立支援協議会、各区自立支援協議会実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい、なごやかネット、よめごと会議、みんなのふれあい福祉ネットワーク）、相談支援連絡会議、合同事例検討会等。

・宮城県高次脳機能障害支援養成研修、相談支援専門員の「現任研修」。

相談支援センターほっぷの木

管理者・相談支援専門員 平山 昭江